

ふるさと上越ネットワーク会報

NO.24 2007.12



平成十九年新潟県中越沖地震

間、大糸線の糸魚川・南小谷間、北越急行ほくほく線でも、運休が相次いだ。JR谷浜駅付近で緊急停車した特急「はくたか七号」の乗客約二百四十人は、バスによる代行で越後湯沢駅に輸送された。

高速道は午前十時十四分から北陸道糸魚川IC・新潟西IC間、上信越道中郷IC・上越JCT間が交通止めになった。午後六時には、北陸道上越IC・長岡JCT間を除き通行止めが解除された。

商業施設でも商品の落下、破損、荷崩れなどの被害が各地で多発。中越大震災のときよりも被害が多いケースが多かった。

上越市では十六日午前十時二十分に市役所に災害対策本部を設置。木浦正幸市長は地震発生後すぐに柿崎入り。視察後ライフラインの確保、被災者の不安解消に向け「心のケアを整えるように」と指示した。また、地震の発生を受けた十六日夕、安倍晋三首相が急遽ヘリコプターで柏崎市内に入り、被害状況の報告を受けた。

今年六月に発足したばかりの上越市防災士会は、今回の地震で被害の分布が顕北地域に集中したために、一斉招集をかわせず、各防災士が住む町内会での活動を指示した。大きな余震が発生した場合の避難手順や、円滑な避難の準備などを的確にアドバイスして、感謝された。

一夜明けた十七日、上越市は午前八時三十分から各区総合事務所長を市役所に

中越大震災の発生から三年足らず。七月十六日、午前十時十三分ごろ、新潟県上中越沖で激しく長い横揺れがあった。この地震による被害が特に甚大だったのは柏崎市。上越市でも旧頸北地域で震度6弱、そのほかの地域でも5強の強い揺れを記録し、県内沿岸には津波注意報も発表された。三連休の最終日を襲ったこの地震は、気象庁により「平成十九年新潟県中越沖地震」と命名された。

震源に近い柿崎、吉川、三和区では、大半の家で家具が倒れ、所々で塀が崩れるなどの被害が出た。老朽化した建物を中心に倒壊が発生。市の職員による危険判定が進むにつれ、中に入れない建物が増える。午後三時三十分すぎの大きな余震をはじめ小規模な余震も起きた。

日中から柿崎区的全域と吉川区の大半が水道が使えなくなり、夕刻には断水範

囲は大潟区や頸城区にも広がった。午後五時過ぎから市の給水タンク車と陸上自衛隊の給水車が柿崎区の十箇所で給水活動をした。吉川区では総合事務所前に市の給水車が飲料水をヒストン輸送し、お年寄りら災害弱者には消防団がそこからポリタンクで運んだ。

頸北の各区では避難所も設置したが、利用は一部にとどまり、人数も数人程度となった。大潟区の湯端町内会館には住民約九十人が避難したが、午後三時には自主解散となった。

吉川区では市の福祉担当者が、高齢者や障害者の安否確認を行い、有線電話で、六百二十人の身の安全と所在の確認を午後四時までに終えた。

JR信越本線・青海川駅では、崩落土砂が線路を寸断。妙高高原・東三条間で終日不通となった。北陸本線の糸魚川・直江津

集め、拡大対策本部連絡会議を開催。各地での情報収集、今後の対応策を確認した。木浦市長は、二次災害への注意喚起を指示した。今回の地震は余震の数がこれまでに比べて少ないことが気象庁でもわかったが、一週間程度は強い余震が起きる恐れがあることで、注意が呼びかけられた。(編集部)



柿崎区荻谷の土蔵



柿崎区荻谷の土蔵



柿崎区角取の土蔵



吉川区総合事務所事務室



吉川中学校グラウンド



吉川中学校グラウンド



三和区島倉の土蔵



三和区島倉の土蔵

越後謙信SAKEMまつりを 終えて

越後謙信SAKEMまつり実行委員長
（株）武蔵野酒造 代表取締役社長

小林 元

今年で二回目となる「越後 謙信SAKEMまつり2007」が開催されました。このまつり開催の目的は「酒」を地域の宝として全国に発信をし、酒や地場産品が売れることの経済効果はもちろんのこと、地域外の人が集まる事による外貨獲得や上越エリア全体の個性化の一翼を担うことでもあります。

今回は市外からの入り込み客数割合三十％（昨年は十二％）を目標に十月二十七日（土）・二十八日（日）の二日間、高田本町商店街を歩行者天国にして開催致しました。

二十七日午後三時、あいにくの雨模様の中、木浦上越市長の鏡割りを合図にこのお祭りがスタートしました。今年には再来年の大河ドラマ「天地人」原作者である火坂雅志さんもかけつけていただき、盛り上がりがあったオープニングでありました。

しかしながら「この雨では今日は閑古鳥、出展者の皆様には謝らないといけない」と思った始まりでもありました。出足はやはり悪く、雨も激しくなり不安が倍増しておりましたが一時間を経過した頃からかなりの賑わいとなりました。本町商店街の雁木も雨天用の通路として、また小人数の臨時宴会場として利用されその役割を果たしておりました。

今年も五〇〇円で試飲グラスを購入頂くと各ブースのお酒が試飲出来るシステムにしたので本町通りはグラス片手にはる酔いの人々の行列となりました。昨年、食のブースが足りずお叱りをいただきましたが、今年は昨年の賑わいが功を奏し、かなり出店が増えたことでお客さんも満足した様子でした。また昨年、好評であった新酒「越後 謙信まつりSAKEM」は増産したのにも関わらず売り切れとなりました。

ステージでは、二義会のメンバーによる謙信公武輪式、頸城杜氏による酒造り唄の披露、そして東京農業大学の大根踊りも登場し盛り上がりを見せておりました。いつもなら電気はついていますが闇に包まれているような本町通りの午後七時頃が一番の盛り上がり時間帯となり昨年同様の人出となりました。それぞれの辻から人が入り、それぞれの辻から人が出ていく、中には仲町に流れる人もあり高田らしい風景であると実感いたしました。一日目は雨にも関わらずよくこれだけの人が集まったなあといった感じで終了しました。酒飲みには天気は関係せずでした。

二日目は前日とは天候は正反対、朝から快晴となりました。この日は午前十時から午後三時の開催でありましたが開店前からかなりの人出。昨日、来れなかった人が押し掛けてきたといった感じです。朝も早くからグラス片手にあちらこちら、スタッフからも「俺も客になりたい」と本音がぼろり出ておりました。ステージでは地元ミュージシャンによるジャズ、津軽三味線、アカペラなどが披露され盛り上がりを見せておりました。昼前後は昨年以上のお客さんで埋め尽くされ、ちよっと古い表現ですが原宿の竹下通りを思わせるほどでありました。

この二日間で昨年を一、〇〇〇人上回る約三二、〇〇〇人を集客することが出来ました。また、市外からの入り込み客数割合二十％を達成することが出来ました。来年は更にレベルアップをし、ツアーなどを企画してもらえようようなSAKEMまつりにしていきたいと考えております。



大盛況だった

「上越そばまつり」

上越そばまつり実行委員会

十一月十八日(日)午前十時から午後三時まで、旬菜交流館「あるん畑」で第二回上越そばまつりを開催しました。

上越市は今年度を「上越市ふるさとアピール年間」と位置づけ、全国的に市を売り込み知名度を向上しようとして取り組んでいます。豊かな地域資源を活用したイベントを通して「ふるさと上越市を広くアピールするとともに、上越市にある中央農業総合研究センターの北陸研究センターで開発されたそばの新品種「とよむすめ」の産地化やブランド化を推進するため、上越そばまつりを開催しました。

昨年とは好天に恵まれ、予想を上回る大勢の方が来場し、お昼過ぎには売切れしてしまう盛況ぶりでしたが、今年は季節特有の大荒れの天気になり、来場者は昨年の三割減の二、五〇〇人でした。横殴りの嵐の中、来場者の大幅な減少を心配しま

うもん打ちで打ったそば。薬味には地元産のくるみとねぎを使用。

・**葛蒲深山そば**(大島区)標高五〇〇メートルの大島区葛蒲産のそばを石臼で挽いて、きめ細かい上質なそば粉でつくったそば。

・**そば処 本草庵 手打ちそば**(牧区)とよむすめと地元産自然薯を使って芽香き屋根の古民家でうった風味豊かなそば。

・**白峰そば**(牧区)雪太郎大根の里である白峰地区の「とよむすめ」と自然薯を使ったそば。つゆは地鶏をだしにしたコクのあるそばつゆ。

・**手打ちそば 下鳥**(吉川区)吉川で昔から育まれた自然薯の手打ちそば。風味・喉しとも最高。

・**岡沢鳥汁そば**(中郷区)コシの強いそばに、温かい鳥汁がよく合ったそば。
・**霧下そば**(板倉区)標高八〇〇メートル、光ヶ原高原のさわやかな空気に霧の中で育ったそば。

・**北野そば**(清里区)自然薯をふんだんに入れたそば。つゆは鶏肉のだしつゆ。

・**清滝そば**(清里区)海拔四〇〇メートル、寒暖差が生む風味豊かなそば。清滝川天然水を使用。

・**深雪そば**(名立区)自然薯を使った、地域に昔から伝わる風味あるそば。

・**そば処光ヶ原せきだ亭**(板倉区)光ヶ原のふもとと下関田の寒暖差が生む風味豊かな

なごころの良いそば。

地域によってそば粉つなぎ、そばつゆが異なり、それぞれにこだわりのある味わい深いそばが楽しめました。上越そばまつりは来年も開催する予定です。今年、来られなかった方は、是非、お越しください。



城下町高田花ロード

城下町高田花ロード実行委員会
実行委員長

大嶋喜久雄

第九回目的の城下町高田花ロードが、本年も十月六日〜八日と体育の日を中心に実施されました。近年、作品の出展数が減少し、大規模な作品も少なくなってきました。そこで、今回は初めての試みとして、

現代アート作家や造園関係のプロあるいは美術系大学の先生等に、招待作家として出展の依頼を致しました。また老健やグループホーム等の団体にも、積極的に出品依頼を行った結果、点数で前年を多少上回ることになり、作品のグレードも上がったのではないかと考えております。花ロードの来場者数は天候に左右されるどころが大いかわけですが、今回はお天気に恵まれ、三日間で凡そ四万人の人数がありました。ここ数年は、「お馬出し遊市」や「あわゆき組」等のまちづくり団体の皆さんと連携し、本町商店街以外でも様々なイベントが開催され、相乗効果

により高田の街の賑わいが増幅され喜んでおります。

また、三回目位から関東地区より大学の学生さんを中心に「へび隊」という名称で多い時には十数人の方々が、作品を出展してくださいました。彼らの作品は現代アートのなものが多くありますが、高田の街並みに非常にマッチするものが多く、また、ユニークな作品もあり毎回楽しみにしております。現代アートの作品を屋外に展示することは、いろいろ制約が多く大変なようですが、ここ高田花ロードでは堂々とおもしろきり作品発表が出来ますので、今後は更に多くの作家の方々が出展して下さることを期待しております。

九回目的の城下町高田花ロードが終了し、未だ様々な反省点も多々ありますが、今後、厳しい冬を迎える前の穏やかな秋

の三日間を、市民の皆様楽しんで頂けるお祭りになりたいと思っております。

なお、来年は十回目という節目を迎えます。記念になるような企画をと、実行委員会皆で今から考えを巡らせております。このお祭りは作品参加して頂くことが、第一義ですのでネット会員の皆様も、積極的に出品して頂き、来年十月にはふるさと高田の地で、高田花ロードをいっしょに満喫しませんか。



上越市三和区、佐渡を訪れて

川端 相川義夫（本町五丁目出身）

Jネット秋の交流会として二泊三日（十一月三〜五日）に亘り総勢一四人で上越市三和区と佐渡を訪れました。

紅葉はまだでしたが三日間ともまずまずの好天に恵まれ実に有意義且つ楽しい時間を過ごすことが出来ました。ここにその時の状況をお知らせいたします。

【十一月三日（土）】

かつての豪農・富水邸と風巻神社を訪れました。

林富水邸

最初は上越市三和区にある上越市文化財 富水邸を訪れました。富水邸は「越後豪農の館」として知られ、先ずはその面積も定かではない程の広大な敷地の大きさに驚かされました。現在御住まいになっているご夫妻二人が往時の姿そのままの母屋と庭を背ににこやかに我々をお出迎

え下さいました。その広い庭は京都の苔寺を彷彿とさせるような一面苔むした地に覆われており、樹齢が数百年もするような杉や松、樅の木等がいかに長い風雪に耐えてきたかを示すように樹肌が枯淡な表情を露わしていました。ご主人は温厚で物静かな方、奥様も品のある美しい方で、我々の愚問にも気持ち良く応対してくださいました。これだけの大きな家を維持してゆくのに例えば茅葺屋根の書き替え等、大変なご苦労があることも垣間見たような気がします。少しばかり絵を嗜んでいる私としてはこの由緒ある文化遺産をモチーフとしてキャンパスにぶつけたい気持ちで一杯になりましたが、心癒される空間についつい時間を経つのも忘れて興味をそそられ通して、描きそびれてしまいました。このような文化財が朽ちることなくいつまでもたいせ

つに保存されるようお願いしつつ後ろ髪を引かれる思いでここを後にしました。

風巻神社

次に富水邸からさほど遠くないところにある風巻神社を訪れました。とにかく一〇〇年以上も前に創建された非常に古い神社で、なんでも作物に最も影響を与えるのは風ということで五穀豊穡の神として祀られているようです。小高いところに立つている社でそこで若い宮司さんから我々一人一人の名前を織り交せた祝詞を給わり、靈験あらたかな気持ちになりました。

神社から少し下ったところに社務所があり、伎楽面等珍しい宝物を見せていただきました。現宮司の父上は画家でもあり、上野の美術展で何度も入選されているそうで、作品が数点飾られています。広大な寺領の中に風格を備えた社殿はさすがに近郷の総社に相応しく、しばし静寂と清浄につつまれ心を洗われるひと時でした。

初日は保養施設 米本陣に泊り、飲み食い、語りで楽しい夕べを過ごしました。ここからは越後平野ののどかな風景とその向こうに海が地平線すれすれに僅かに顔を出し、また南葉山に連なる山々のすばらしい風景を眺めることが出来ました。

【十一月四日（日）】

米本陣を七時四十五分に出発し、直江津港から佐渡小木港に渡りました。佐渡では小木民族博物館（千石船展示館）、真野御陵、妙宣寺、佐渡相川金山と回りまわりました。

小木民族博物館・千石船展示館

宿根木にあるこの博物館は木造の校舎を利用した建物で、中には再現した千石船「白山丸」がところ狭しと建物一杯に展示されています。白山丸にみんなで乗ってあてもないこうでもないと想像を逞しゅうしながら江戸時代後半に活躍した北前船等の当時の回船業に思いを馳せました。

真野御陵

鎌倉幕府を倒そうとした所謂「承久の



乱で、失敗し佐渡に流された順徳天皇の火葬塚で、いかにも涙をさそうような寂しいところにあります。当時の佐渡というのはどんなところであつたらうかと、上皇はどんなふうに通じられたのだからかとしばしば歴史のロマンと同時に残酷な一面を見るような思いがしました。

妙宣寺

国の重要文化財に指定されているお寺で県内では唯一の五重塔があります。五重塔は期待していたほどのことはなかったのですが、お寺はわりと小じんまりとしているも、その周辺のたえずまい勢囲気は実にバランスのとれている魅力のある名刹で、もう一度訪ねたいと思うほどでした。

佐渡金山

いよいよ佐渡最大のスポットである佐渡相川金山に行きました。ガイドさんの指示に従って暗い坑道を下ると左右に鉱脈を掘削、選別、排水、運搬と過酷な作業を強いられる労働者を模して数多くのコンピュータロボットが悲鳴にも聞こえる声を出して美にリアルに動いていました。江戸の華やかな文化を支えていた最下層の人達、まさに金山哀史ともいうべき歴史の暗い断面を見るような気がしました。そしてつい近年まで採掘が行われていたとは驚きでした。(平成元年採掘中止)

金山を後にすると、夕日も沈みかけ、夕

イミング良く日本海のサンセットに出会うことが出来ました。水平線彼方に太陽がゆつくりとその姿を隠していく神々しい光景、まさに旅の舞台の大団円といつてよいでしょう。

この日は老夫婦が運営する民宿「あけぼの荘」に泊り、紅ずわい蟹をはじめ美味しい海の幸を食べながら楽しく談笑いたしました。

翌日(五日)は赤泊や小木でお土産を買った後、島を後にしました。

以上、ふるさと周辺の旅の経過ですが、参加者は大体同世代でしたので共に学制改革で出来たばかりの新制中学、新制高校で学び、戦後の混乱期を遮二無二過ごした同じような経験をしている人達です。そんなわけで全然知らないところへの旅と違って勿論懐かしくも愛着はあるのですが、また一方一種独特の感慨を覚えたような気がします。

地方の歴史・文化と人間との係り、更には人間の生き方の根源的なところまでさかのぼって考えさせられる旅でした。



富永邸の庭で記念写真



富永邸の玄関



勝舟の書を前に富永さん



庭からの富永邸



風巻神社での儀式



富永邸でお茶とお菓子をごちそうに



米本陣での宴会



風巻神社の宝物展



米本陣での宴会



米本陣での宴会



ポテトチップを受け取るかもめ



佐渡汽船

米本陣・佐渡吟行

中巻 小田切松枝（北城町出身）



妙宣寺



小田切さん

豪農邸 すでに冬めく 昼灯あかり

米本陣を すべり落ちたる 秋灯

蟻螂の 天地逆しま 玻璃はりに攀よつ

たわいなき 話のふくる 秋の夜

秋の夜の 母そとの空事 旅枕

はからずも 佐渡にかしこむ 冬立つ日

吟遊ぎんゆうす 大佐渡小佐渡 大花野

仁王尊の 色の剥落はくらく 夕紅葉もみじ

石路つわの花 屋根に石置く 島の路地

身しに入いむや 御火葬跡ごの 暗き径みち

おけさ柿 吊るす日だまり 猫だまり

空稻架からの出番や 佐渡の大根干し

柿干して 遠流おんるの島を 語り継ぐ

崎端さきはしに 立てば海より 冬の声

海より出づ 海に沈みぬ 冬落暉らつき

かぶりつく 歯おとなを持つ老女 冬林檎



大佐渡に沈む夕日



佐渡の民宿での宴会

湯島天神と旧岩崎邸庭園

府中市 金澤一男（大町五丁目出身）

七月二十一日（土）、東京メトロ線、地下鉄千代田線湯島駅午後一時集合、一七名の参加です。

湯島駅を出発して歩いて五分程に湯島天神があります。四〇分程、自由に見て回りました。泉鏡花の『婦系図』の舞台として、演劇に、映画に、歌謡曲に、「湯島の白梅」の名でも知られています。

湯島天神を後にして、近くにある都立公園旧岩崎邸庭園を訪れました。ポラントピアによる庭園の案内説明は、奇しくも高田工業高校デザイン科を卒業された兼子ますみさんでした。

旧岩崎邸庭園は東京都立重要文化財に指定されている建造物です。旧岩崎邸庭園は上越市との関連はというと……旧岩崎邸は、Jネットの相談役でいらつしや

る榊原さんのご先祖が江戸期にお住まいだった榊原邸のあった場所です。庭園に当時を偲ぶ石碑、広間前の手水鉢や燈ろう、庭石、モッコクの大木などを見る事が出来ます。

その後明治初期は舞鶴藩、牧野邸の屋敷となった岩崎邸の庭は、大名庭園の形式をしのぶ事出来ず。その後明治二十九年に三菱の創始者、岩崎家本家として建てられました。設計ジョサイア・コンドルの設計で日本の建築史に残る建造物です。現存するのは、洋館、撞球室、和館の三種のみ。

館内の随所に見事なジャコビアン様式の装飾が施されていて、同時期の西洋建築にはない繊細なデザインが、往時のままの雰囲気をもたらしています。館内の案内説明、建物の中の説明は約五十分程度でした。案内の兼子さん説明を楽し

く聞きました。

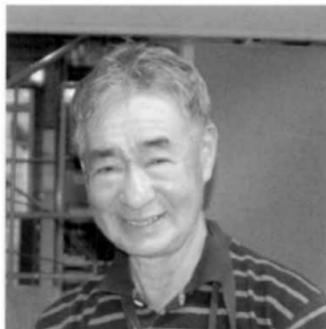
毎週土曜日の午後は演奏家や学生によるコンサートが行われています。幸いこの日は土曜なので、筆とマリンバとの組合せですばらしい、和楽と洋楽のコンサートを楽しむことが出来ました。めずらしい合同演奏で調和がとれて新鮮さがありました。

旧岩崎邸庭園を散策して、庭園で全員で記念写真を撮影する。（一部参加した人が写っていないのは残念です）

午後三時四十分頃、旧岩崎邸庭園を出て、上野公園不忍池の周囲を散策する。弁天堂経由で、上野通りに出る。不忍池の蓮の花が咲いていましたが葉が大きいのでまだよく見えなかった。夏祭りの盛んな時期なので、上野祭りの踊りが行われていました。

午後五時、上越市出身者の経営される「居酒屋949」に場所を移し、懇親を深めました。Jネット会長と久井さんと岡村さんは所用で懇親会のみに参加でした。勉強会だけでお帰りになった人が三名おられたが、懇親会は十六人の方が参加しました。

日頃ご無沙汰しているJネットの友人とこんな機会を利用しての話し合いはとても貴重です。二時間程の懇親会も話が



金澤一男さん

はずんであつという間に過ぎてしまいましたが、またの再会を約して、午後七時に解散しました。

とても有意義な勉強会でした。多くの参加を頂き幹事として大変嬉しく感謝申しあげます。

■湯島天神

東京都指定文化財
学問の神様、菅原道真公を祀る。
文京区湯島三の三〇の一

■旧岩崎邸庭園

重要文化財
台東区池之端一の三の四五

■居酒屋「949」

上野駅の近くアメ横、JRガード下にある旧牧村出身のオーナ内藤洋子さんの経営される上越市出身のちよつとい店です。

〒一〇・〇〇〇五

台東区上野六、十一、十五

電話 〇三・三八三一・九四九〇

会報二十二号で紹介済み



岩崎邸での記念写真



湯島天神にて



居酒屋「949」にて

葛飾柴又の魅力満喫

大滝恵三（大手町出身）

寅さんのふるさと柴又は
上越市浦川原区と姉妹提携

七月の第五回勉強会に参加した時、担当理事の藤沢さんに次回の企画を頼まれた。私の住んでいる葛飾区には全国ブランドの柴又があり、その柴又は一昨年上越市に編入した浦川原区と姉妹提携しており、しかも十一月には恒例の交流イベントがあることを知っていた。早速、実施日はその日に合わせることにし、内容をいかに勉強会らしくするか、具体的に検討しながら関係者への打診、根回しを始め、八月末には企画案がほぼ固まった。題して「寅さんのふるさと、浦川原区と姉妹提携 葛飾柴又の魅力を探る」。九月の運営委員会に間に合うように企画内容を提案したところ、藤沢理事から承認をいただいたので、九、十、十一月のサロンに出席してPRし、九月のJネットだより

には参加者募集要項が掲載された。

柴又と浦川原の関係を紹介する。太平洋戦争の末期、東京が危なくなってきた昭和十九年八月、東京都内の小学校当時国民学校と称した。は学校単位で地方に疎開、葛飾区内十八校は全て新潟県内で、柴又小は旧浦川原村であった。因みに旧高田市には金町小など三校が疎開。学童集団疎開を縁に生まれた交流が今も定期的に行われているのは浦川原・柴又のみで、八月に柴又小四年生が一泊二日で浦川原を訪問、十月には浦川原の四年生が一泊二日で柴又を訪問、そして十一月の三日曜日に柴又で交流フェアを開催。定期的な交流は今年で十九年目。

うらがわら柴又交流フェア07
開会式典に上越市幹部も参列

十一月十八日(日)朝方は冷えこんだが、

昼間は二十度近くなる、の天気予報通りだんだん暖かくなる。帝釈天境内での十時からの式典の前に、関係者にあいさつ。今回は上越市が初めて共催として参画、物産コーナーもあり、上越市から村山秀幸副市長はじめ小林毅夫教育長、さくらキャンペーン大使の北井さくらさんなど多数が来場していた。式典では北井さんが司会を務め、来賓では、地元元の区長、教育長、衆議院議員、都議、区議など顔見知り多数が参列していた。

フーテンの寅像前からフェア会場へ

今回の参加者の集合時間十一時の三十分前に集合場所の柴又駅前、フーテンの寅像前に着くと、すでに五、六人が集まっていた。心配していたトタキャンは一人もなく、逆に参加者は二人増え、和久井会長以下、二十一人となる。

十一時過ぎ、今回の最初の見学地、交流フェア開催の帝釈天境内特設会場へ。会場では物産販売の他、浦川原産の餅つき大会、交流ふれあいゲームなどのイベントもあつて、かなりの賑いぶりだった。

昼食時の亀家本舗でゲスト二人の話

十二時までに帝釈天門前の団子屋・亀家本舗に集合。今回の参加者交流の場で、昼食を取りながらゲスト二人の話聞く。まず、旧高田市での疎開体験談を野口



大滝恵三さん

房夫さんから。この勉強会参加者は大高田地方出身者であることから、金町小時代に高田へ集団疎開された野口さんをお願いした。同氏は現在七十二歳で、東金町中央自治会長。疎開当時は小学校五、六年。昭和十九年八月三十日、先生や母親代わりの寮母を加え約三百人が金町を出発、翌日高田に到着、約半数が料亭やすね、残り半数が植木屋旅館と森屋旅館に。同氏は植木屋・森屋・植木屋と移動。就学は大町小、翌二十年七月、戦禍一段と激しくなり市街地は危い、と再疎開。旧津有村上野田の西方寺へ。就学は戸野目小。そして終戦、同年十月三十一日高田駅出発、翌日金町に帰郷。この間一年二カ月、親恋しき、しらみ、空腹、想像もしなかった豪雪と戦いながらの集団生活だったとのこと。高田測候所史上最高積雪を記録した昭和二十年二月の豪雪は森屋の時に体験。本町

本堂の帝釈堂内陣外側には、平成三年に完成したガラス張りの彫刻ギャラリーがあり、その中の法華経説話彫刻と、帝釈堂前面の十二支彫刻は、大正から昭和初期の彫刻師によるもので、極めて文化的価値の高いものという。特に法華経説話彫刻は十枚の胴羽目彫刻で、仏教教典の中で最も有名な法華経絵巻を題材にしている。一枚の大きさはふすま大。ガイドはこれだけの彫刻の規模と見事さは日本一では、と絶賛していた。最後に、映画でお馴染みの本堂と瑞龍松の前で全員の集合写真を撮って本日の全行程終了。

参加者のご協力により予定より早目に終わったこともあり、もう一度亀家本舗二階座敷に寄り一服。ここで和久井会長に締めのごあいさつをお願いしたところ「今回の参加者は今までで一番多かった。幹事さんのお陰で今日は楽しい思いをしました」とお誉めの言葉をいただきましたが、私としては今回は勉強会に相応しくなかったのでは、また無冠の私が全面的に取り仕切っていたが、これで良かったのだろうか、自問自答している。



帝釈天境内



参道入口



うらがわら柴又交流フェア



映画の「くるまや」のモデルとなった亀家本舗



蒲川原区のテント前で



帝釈天をバックに



岩崎社長（左）と野口さん



江戸川土手で記念撮影



映画でお馴染み帝釈天の本堂と瑞龍松



山本部の庭園



帝釈天の彫刻ギャラリー



山本部の客間

心頭滅却し、やり過ぎした 猛暑の夏

関東八千浦会館会長
相模原市 波多野繁夫（夷浜出身）

猛暑日記録更新の今年の夏、心頭滅却すれば何とやら、私は柄にもなくある作業に没頭した為それはどこの国の話？程度
の三ヶ月半であった。

- ①「歴史と向き合う、語りつぐ戦争、写真が語る戦争」
- ②「昭和二十年代の生活」
- ③「教科書の歴史」
- ④「昭和二十年、三十年代、人々の楽しみ」

六月二十八日故郷八千浦（やちほ）小学校六学年宿泊体験学習「八千浦出身の方々からお話を聞く会」に①②を参考資料として当日の学習に使い、③と④は後日学校に届けた資料集である。

平成十六年以来三年ぶりに国立オリンピック記念青少年総合センターで生徒四十名、引率の先生四名、関東八千浦会から

は会長以下六名が参加、あらかじめ提出されていた質問に答えるという形で学習会が進められた。

これまで生徒が研究発表し我々がそれを補足するという方法で学習会が行われてきたが二時間の限られた時間では生徒が発表しこれに一言三言我々が育ち生活した当時の様子を語るだけ、今回は時間の節約の意味も含めあらかじめ、質問項目を事前に提出しておいてもらいそれと答えるという方法をとる。

提出された質問十三項目、海浜の様子、遊び、行事、漁業、産業、学校生活、景観、食糧事情、戦中戦後の暮らし、実に多岐にわたつての質問である。

その質問に答えるべく用意したのが冒頭に記した①②の資料集である。

①は朝日新聞の連載特集記事及読者の投稿を私が収録しこれをコピーした約四

十枚。

②は平成十四年の体験学習会に合わせ収集した「昭和二十年代の生活」の資料に今回新たに街の様子、謄写版、五銭から百円迄の旧紙幣七種類、蛇腹、二眼レフ等の旧カメラの写真、等々の写真やコピーを追加。

さらに後日「充員召集令状（通称赤紙）」のカラーコピー、肥後守（小刀）を紹介した新聞コラム、これ等を先に渡した資料に加えるよう送る。

「百聞一見に如かず」六年生といえどまだまだ社会経験も未熟な年代、百万言を費やしても我々の若き時代を理解するには至らない筈、ましてや読解力は個々に大きな格差が有る。短時間に理解させるには出来るだけ物を、映像を見せる事が一番である。こんな思いで遊具も街の民芸品店を廻り買い求め竹馬、パチンコ、核、紙鉄砲等々入手出来ない物は手作り、防空頭巾、モンペは女性会員の手を煩わせての手作り、これ等を見て生徒も先生もびっくり、これで生徒が理解したと確信する。

後日あらかじめ提出されていた質問にはなかった為「教科書の歴史」「昭和二十年代、三十年代、人々の楽しみ」については後日資料を整え届けると約束する。

さてそれからが大変、年金暮らしの上のアルバイト生活、勤務の日程と時間を



波多野繁夫さん

工夫しての図書館通い、幸い若い美人司書三人、私の目的をよく理解しての協力、図書館に訪れる度に私が必要とする資料をその日の目的に合わせ整えておいて下さる。しかも必要とする個所にはインデックス付である。

感謝感激、その作業の繰り返しで閲覧した本は百冊は下らない。

約束通り「教科書の歴史」は七月末に資料収集完了。

内容は

- 一、教科書のあゆみ
 - 二、江戸時代の学習書
 - 三、明治大正の教科書
 - 四、昭和の教科書
 - 五、初等科算数
 - 六、カズの本一、四のCD一枚
 - 七、カズの本さし絵画家今関啓司氏
 - 八、戦中戦後の学校と生徒
 - 九、藩校、塾、寺子屋
- である。
- 早速学校にあてて発送。

つづいて「昭和二十年、三十年代、人々の楽しみ」と題し四冊のファイルブックにまとめる作業にとりかかる。

内容は

一、昭和二十年、三十年代、の世の中の様子

二、銭湯

三、紙芝居

四、野球

五、日本の映画

六、洋画

七、テレビ、ラジオ

八、レコード

九、雑誌と漫画

等々であり銭湯は銭湯絵で当時最も多かった富士山と海の絵をカラーコピーで十数枚。

紙芝居は黄金バットの作品二巻を写真

で。

野球は二十一年から二十三年迄の選手名鑑と成績、そして二十二年から二十五年にかけて存在した女子プロ野球を。

日本の映画は大映、東映等邦画五社社のポスターを写真で八十カット三二〇枚、洋画は当時上映された全作品のチラシをコピーし収録。

テレビは放送開始当時の様子と機器、ラジオは真空管初期ラジオやカーボンマイクを含め脱真空管初期のラジオを。

レコードは出来るだけ多くのジャケット



トを各分野に亘って集めコピー。

そして雑誌と漫画は当時の特徴「附録」の一部の写真、「のらくろ」「少年倶楽部」の発刊からの全紙の表紙と内容の一部の写真、そして江戸川乱歩、田河水泡等人気作家の作品集とプロフィールを収録。

以上収録した資料は小学六年生にとっては少々程度が高かったかもしれない。しかし大人であり教育を専門とする教師が色々と制約される中であってこの程度、これ位の量と決めてかかって資料を生徒に与える。もっと悪いのはこれが答えです、これが正しいと結論を生徒に押し付ける事である。

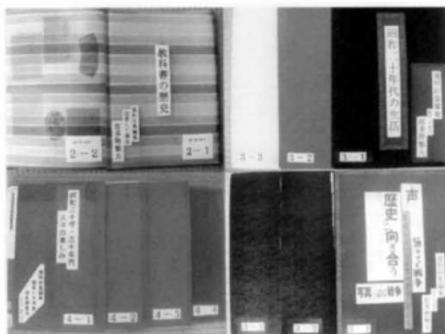
私も中学二年生を頭に二才まで四男五女の孫がいるが時には大人の常識をこえる行動に出る。又意外なものに興味を示す。物量の多少、物の大小、人はそれぞれ

の生活環境、育つて来た条件により多少大小の概念が異つ。これを無視し一くくりにして「多くの映画が：「少ない給料で：」と教えても生徒が一率に同じ数量を思い浮かべるとは限らない。

生徒には可能な限り多くの材料資料を与え比較検討し結論を自分で引き出す。そんな事を期待しての資料収集であった。

温故知新という言葉がある。

学期が終わるにあたり多くの生徒からA4用紙一枚にびっしりと書かれた札状、ほぼ全員でありその多くは昔の海浜の汚れの無さに驚き、何でも工夫して遊具とした知恵に関心、反面食料事情の悪さに小さな胸をいためていた。



学校へ送った資料の送り状に是非これから卒業迄続く生徒の今回のテーマの学習に、父母は勿論のこと祖父母も加え共に自分達が住む八千浦地区が少ない産業、過酷な自然に打ち勝ち上手に利用して生き抜いて来た先祖の智慧と努力を学ぶと同時に、私の資料の不足を補ってほしいと記す。

一つのテーマで子が父母や祖父母の話聞く、我々が幼少の頃毎晩囲炉裏を囲んでやっていた事、囲炉裏がリビングルームに変わろうとも是非実行し失われつつある家族の会話、父母祖父母への尊敬の念、そして家族の絆を深めてもらいたい。只管願うばかりである。



「あおぞら」学年 宿泊体験学習 in 東京 2007年6月27日～29日

ふるさと探訪の旅

東京板倉會 会長 清水忠志

新緑が目にあざやかな五月、東京板倉會二〇周年記念ふるさと探訪の旅「聖岩窟と丈の山・山寺薬師を散策できる道造り活動」をたずねてが行われた。東京板倉會と地元板倉との交流を深めて行きたい、古里へ形ある動きをしようではないか、会員の意見がかねてより有り、それが「花企画」としてまとめられていた。本年度東京板倉會発足二〇周年を迎えるにあたり実行されたものである。

JR信越本線新井駅前十一時四十分集合。送迎バスでやすらぎ荘着。長寿膳の昼食後午後一時半山寺薬師着。「聖岩窟(通称ひじりいわ)」と丈の山・山寺薬師を散策できる道造り活動」をすすめている「寺野の歴史を語る会」メンバー十二名の方々の先導で、丈の山山頂へ向かった。雑木のある傾斜地を一行になって登り始める。

快晴とは言え藪の中の道はまだまた滑るし、小さい木の枝や根つ子にしがみつきながら、更には仲間の手と手を引つ張りようやく頂上、早い人は二十分後が四十分程かかっていた。

頸城平野が目の前に広がり、妙高山、南葉山遠くは直江津港から日本海に浮かぶ佐渡ヶ島まで見通せる。そこには戒壇の跡と言われる一段高い五間(九巴)四方の仏教遺跡がのこっていた。予め用意して頂いた「ヤマボウシ」それぞれ名札を吊るしい場所を捜して植樹、記念撮影。これから毎年來られるか。五年後十年後、それぞれに愛着の籠もる。一五本の木、成長が楽しみなところである。

丈の山にまつわる山寺薬師と聖岩窟(ひじりいわ)について記してみたい。山寺薬師は遠く、一三〇〇年前の昔、白雉(は

くち)年間(六五〇〜六五四、高徳天皇の御世)に僧阿果が修験道的な山岳仏教の先達として丈の山(たけのやま)を開創したと謂われ、以来行基、裸形、紀躬高等の名僧知識にまつわる古典伝承で山寺三千坊の名蹟としてうたわれてきた。

その後加賀の国の濁世の争乱、鎌倉に敵した為などによる兵燹(せん)にかかり仏蹟(ぶつざく)ごとく灰燼に帰したとされる。(山寺薬師奉讃會由来より)

毎年五月八日がお薬師さまの縁日、近郊の人々で賑やかとなっていた。建っているお寺の中央に薬師如来、左に釈迦如来、右に阿弥陀如来の大きな三尊仏が鎮座する。それぞれに手を合わせてお参りする。

聖岩窟は天平年間(七二九〜七四八、聖武天皇の御世)紀州の人裸形上人が、山岳仏教修業のためにこの地に来て、岩窟で修業したのははじまりで、後に山寺三千坊五山八十一家七堂伽藍続々建立した時代にも修験者達が修業したと伝えられている。山寺薬師の背後にそびえる丈の山を信仰の対象にした適地である。頸城平野が一望に開け、日本海、遥かに佐渡ヶ島を望む絶景の地である。後世には親鸞恵信尼の三男信蓮坊修業の地と伝承されている。多年の天災風雪によって前方入口はくずれているが修行者、修験者、そして信蓮坊が不断念仏を行じた処の曆年の古

さをしのぶ面影をのこしている。岩窟の広さは畳敷枚位あって床は平で十人程度座れるようになっていて、聖の岩窟(ひじりのいわや)と称している。寺野郷土誌)この丈の山周辺がかって山岳仏教の中心地であり子供の頃比叡山と似ている山と聞かされていたことが思い出させられる。

午後三時三十分、お薬師駐車場から車で十分、地すべり資料館に集まって、「丈の山散策道造りの取り組み説明」、地元伝わる「猿供養寺物語」と人柱伝説の講演会が企画されていた。板倉区の中山間地域は、大のけ「地すべり地帯として知られ、幾多の伝説も語り継がれている。眞田広信歴史研究会代表のお話し等に聞き入った。地すべり資料館内部の見学と、人柱供養堂の参拝後徒歩でやすらぎ荘へ。

同六時交流会には地元から、旧板倉町瀧澤純一町長、増村彬町つくり振興会長、三浦栄一寺野の歴史を語る会代表世話人他二十名の方々が揃われる。総勢三十五名、古里は何年経ってもいいものだ、和気あいあいとすすめられる。翌日は朝早く七時半朝食、八時半に出発して、ヨシ八池、光が原、稲増中村十作記念館とまわる。十一時の餅つき大会、山菜まつりに遅れないうち大急ぎで帰郷する。

新潟日報五月三十日付では「古里の友と植樹に汗、首都圏から板倉出身者、上越市板倉区で二十六・二十七の両日、首都圏で暮らす同区出身者と地元住民の交流会が開かれた。参加者の中にはかつての同級生も多く、一緒に山に登って記念の植樹をしたり、地域の伝説について話しを聞いたりした。…一行は、「寺野の」メンバーが整備している地元の山、丈の山の散策道を汗だくになって登り、頂上に名札をつけたヤマボウシを記念植樹した。その後、近くの「地すべり資料館」で地域に伝わる伝説の話聞き、懇親会では、昔のニックネームを呼び合い、思い出話で盛り上がった。」と報道されていた。

ここで地元の方々の活躍、誠意に触れ、ふるさと探訪の旅では大変お世話になった。関係各位に厚く御礼申し上げたい。古里へ形ある動きをしたい。その具体化する一歩であったと確信している。

(東京板倉会事務局長 市村喜幸 記)



うらがわら・柴又 交流フェア'07

東京浦川原会 会長 小菅俊信

十一月十八日(日)深秋の中、天高く曇り一つなく澄み切った晴天の中、大勢の人出で盛大に開催された、うらがわら・柴又交流フェアは今年で十五回目を歴史ある柴又帝釈天願経寺境内にて開催、セレモニーに始まり、各イベントや多数の参加者でスタートした。

我が東京浦川原会もこのイベントに参加した、東京浦川原会ふる里交流フェア「コーナ」[出合いの場]では、多数の浦川原出身者が訪れてくれた、茲では浦川原なまりが飛び交い昔懐かしい人との再会に楽しい懇親と交流の場となった。

柴又との交流の始まりは終戦の時から繋がりがあった。当時学童疎開で柴又小学校の生徒百数十名を浦川原村で受け入れたのが始まりです。

その後柴又小学校と下保倉小学校での交流が始まり、冬には浦川原の雪とス

キーを体験し、浦川原村の各小学校も柴又の地訪れて学習体験し、学童同士の交流が盛んに行われたことが始めでした。その後平成二年から浦川原村、浦川原商工会と柴又自治会が中心になり、柴又帝釈天願経寺境内を借用して毎年十一月に開催され今日に至っている。

現在では上越市・葛飾区の協賛をえて年々盛会に輪が広がった。毎年恒例となったことで東京都民を始め各近隣からお客様が大勢訪れて、浦川原の名産品「自然薯そば・地酒・いなか餅・ぜんまい」等を楽しみに参加している方々に感謝申し上げます。

会場では樽酒の鏡割り地酒と、紅白もちの振る舞い、つきたてのもちとあんころもちには人の行列となつた。また、うらがわら鶴喜舞の皆さんによる「よさこいソーラン」と柴又青少年少女による、大江

戸ダンス」の競演で会場を盛り上げてくれた。

特産品販売では、浦川原大地の山の恵みが満載、前日夕採りの新鮮野菜、前日から準備され夜中に運び込まれたチマキ、押し寿司等々の物産品が店出狭しと並べられ買い物客で大賑わいでした。

おふくろの店での昔懐かしい、すいとんが寒いなか体の芯まで温まり、雪国ふるりの郷愁とおふくろの味を思いだし、また特別な哀愁を感じました。

実行委員の皆様、そして出店してフェアを盛り上げて頂いた皆様、大変お疲れ様でした。参加者の皆様来年の再会を楽しみにしています。

東京浦川原会は、来年も「うらがわら・柴又交流フェア」には力強く応援致します。



小菅俊信さん



よさこいソーラン (うらがわら鶴喜舞の皆さん)



「寅さん」のそっくりさんも応援参加

近畿地区サロン開催

平成十九年十二月八日(土)の正午から、大阪駅のすぐ近くにある「大阪弥生会館」で第六回の「近畿地区サロン」が開催された。

今回は、毎年来られる太田前会長が風邪でダウン、東京からの三名を含め、総勢十六名の参加となった。

尾崎副会長、和久井会長の挨拶の後、相沢(青志)先生の乾杯で開宴となった。

司会は急遽、藤沢運営委員が行い、参加者の自己紹介、懇談の後、『高田の四季』を合唱した。最後は青山見さんの力強い「謙信の勝鬨」で閉会となった。

閉会后、東京から参加した内藤さんは「人数が少なかった分、懇親がより深まって良かった。」と話していました。散会后、有志が階下のコーヒールームで歓談し、余韻を楽しんだ。(編集部)



東京サロン

東京では、毎月第二水曜日に二〇人から三〇人の方をお迎えして、渋谷で開催しております。嬉しいことに、最近新しく参加される方が増えました。ご馳走はありませんが、お酒は上越からのものを何かしら揃えております。どうぞ気軽にお越し下さい。



【会場】

(株)社会システム研究所
渋谷区東一―二六―三〇
渋谷イーストビル一階
電話とファックス
〇三―三四九九―八二九九
初めてのお方大歓迎です。



名古屋地区サロンに参加して

桑名 梶野 昇 (本町四丁目出身)

一昨年の愛知地球博以来、ミッドランド・スクエアを始めとして名古屋駅の周りには新しいビルが立ち並んでいます。

その中心にあるマリOTT・アソシアホテルの一五階において去る九月二十九日に第八回の名古屋サロンが開催されました。東京からは会長の和久井さんと運営委員の内藤さん、上越からは渡邊さんが参加されました。

私ども夫婦は高田、新井の出身で、現在は三重県の桑名に住んでいます。二人で参加させていただきました。このサロンには一昨年に続き二回目の出席でしたが、楽しいひと時を過ごしました。今回は五〇名近くの出席者があり盛会でしたが、会話できるのはどうしても限られた方々だけなのが残念でした。幸い、尾原さん、渡邊さんや名古屋に住む義妹の金子さんが同じテーブルで色々な話を伺うことが

できました。初めて参加の小山さん、知人の深沢さん、藤巻さん、お兄さんが私と高校同期の藤さんとも懇談できました。

親鸞の居多が浜への遠流八百年、NHKの大河ドラマ「風林火山」の上杉謙信役、ガクトが上越でパレードをしたこと、再来年〇九年の大河ドラマ「天地人」では直江兼継が主人公になるなど上越と関係の深い話題は尽きません。他の皆さんも住まいはバラバラでも同郷のよしみでそれぞれのテーブルで歓談されている様子が見えました。

ローカル話になりますが、大阪に住む叔父の高田中学同窓の太田さん(相談役)から桑名と上越のつながりの話が出ました。最近、「うるるは走る」と言う童話にもなりましたが、「桑名日記・柏崎日記」として記録に残るもので、以前NHKで江戸時代の単身赴任としてドラマ「幕

末転勤録」にも取り上げられたのをご存知の方も多と思います。一八四〇年前後、柏崎へ単身赴任した武士、渡部勝之助と桑名に残った子供を預かる祖父、平太夫政通の間で互いに十年間ほとんど毎日書いて交換した手紙が四〇〇字詰め原稿用紙に換算すると五、三〇〇枚にも及ぶ膨大なものだったようです。この日記はほぼ一ヶ月毎に桑名藩江戸下屋敷を経由して飛脚によって運ばれ、遅いときには三ヶ月もかかったそうです。余談ですが、高田には桑名藩出身の方がいると伺っていますが、皆さんの中にもおられませんか。

(因みに桑名藩第三代城主、松平定重が一七二〇年に越後高田藩主となり、その数代後に移封された白河で老中となった松平定信が自分の息子、定永を一八二三年に桑名藩主にしたと言う。柏崎が桑名藩の飛び地になったのはその頃と思われる。)

「ふるさととは遠くにありて思うもの」と言うのは今は昔、名古屋からは電車や車で、四、五時間ほどで上越へ行くことができます。しかし、毎年一回ではあります。このようにサロンで一堂に会してお互いの健康を祝い、生の情報を交換することは大変な喜びです。次回にはさらに色々な方々と交流したいと思っています。



梶野さん (左)

幹事の尾原さんには出席者の把握、会場の設営に大変苦労された伺いました。最後になりましたが、本当に有難うございました。

参考①

<http://www5c.biglobe.ne.jp/~1to/michikusa/kuwananiki.htm>

参考②

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>



すっかり変貌した街

―そして、そこで見たものは…

竹田由彦（直江津河原町出身）

真夏の強い日差しも幾らか和らぎかけ、初秋の気配すら感じさせられる残暑の頃だったと思う。いつものように私のパターン化した一日が始まる。遅い昼食を済ませ、薄暗い仕事部屋にある古びた藤椅子に深々と体を沈め、あれこれと思い巡らす、といった時を過ごしていた。そうこうしている内に夕方近くになり、食材の買出しにでも、と思った矢先に電話が鳴った。また「財テクのお勧めとか、霊園墓地のご案内」なんかだろうと思いき無雑作に受話器を取った。

「直江津高等学校の若山ですが」と言う受話器からの意外な声であった。咄嗟に「私は直江津高校の同窓生ですが」と言ったように覚えている。「同窓会費なら払っています」と言おうとした途端、「この度、直江津高校が中高一貫校のシステムに変わるので、新しい校歌の作曲をお願い

したい」とのことであった。「それは大変光栄なことでもあり、喜んで引き受けさせて頂きます」と即座に答えたことを覚えていた。

その後の打合せで、作詞は大岡信先生にお願いすることになり、私は校歌作曲の下見を兼ねて、十月中旬頃に学校に伺うことになった。暫くは遠出をしないので、列車時刻表を見ながらのスケジュールの調整は久しぶりであった。上越新幹線経由はくほく線で行くことに決め、午前中に着くように手配し、座席の確保を考慮し、予定通り東京駅から発つことにした。

最近の直江津駅周辺はすっかり様変わりしたことは噂で聞かされていたし、白く細長いドーム型の外景も写真で見たこ

とがあったので、だいたいの様子は想像できた。

汽車は越後湯沢を過ぎ、何となく時を過すうちに直江津駅構内に入り、やがて静かに停止した。

漸く来たなあ、という妙な実感が込み上げてきて、下車して暫くはホームを見上った。

―あの頃と同じなんだろうか、それとも改修されたのだろうか。階段を登り、改札口で若山校長先生の出迎えを受け、初対面の挨拶を交しながら構内を抜け、駐車場のある方の階段を降りた。

そこで目にしたものにはあの頃の面影は何処にもなく、すっかり様変わりした光景だけであり、方位錯誤に陥ってしまった程であった。

若山先生の車に同乗させてもらい、近くにある高校に向かった。風が吹けば砂埃が舞い立った小石混じりの坂道は舗装され、正面玄関の位置も変わり、思い出の中にある古びた木造校舎とは打って変り、丸ごと建て替えられてしまっていた。改築はいつ頃だったんだろうか。アカシヤの樹が植えられていた所は何処なんだろうか。ふとそんな思いが頭の中を掠めていった。

校内に案内され、周りの方々への挨拶を済ませ、教室での授業風景を拝見させ

てもらい、見晴らしの良い屋上に案内された。

遥か向こうに妙高山が見え、反対側には米山が霞んで見えた。日本海が直ぐ近くに見えるのは気の所為だろうか。波打ち際までの砂場が広がったように記憶しているのだが、屋上を降り再び校内に戻り、廊下を歩いている途中、何故か物足りない寂しさのようなものが込み上げてきたのは何故だろうか。

やはりアカシヤの樹がないことに気付いた。校舎改築の際に除去されたことは事前に聞いてはいたのだが。思い出のページが剥ぎ取られてしまったような心境になってしまった。

校舎の一隅にあった音楽室の窓から見えたアカシヤの樹々は、毎年六月から七月にかけ、爽やかな日差しに照らされた葉が重なり合い、そよ風に揺れやがて咲く白い花が初夏の到来を告げる。「あゝ綺麗だなあ」とつくづく感じたのは今でも



記憶に新しい。

今、タイムスリップして同じ光景を目にしたとしても、恐らくなんの変哲もない一つの点景にしか見えないかも知れないが、四季の移り変わりの中では最も印象に残る風趣だったように思えてならない。私と同じ世代の卒業生の中には、同じ体験を持っていた人が少なからずいるように思えてならない。今でも存続している生徒会誌『アカシア』がこの事を物語っていると思う。私の中では、遥かなる記憶が目蓋に焼き付いていて離れない。そして、惜別の情がいつまでも尾を引くことにならなければならない。

校長室で昼食をご馳走になり、暫くして生前近所に住んでおられた恩師中井ツノ先生のご自宅に伺い、御霊前に手を合わせた後、ご息の中井良海先生の自家用車に同乗させてもらい、学校と駅周辺の主な所を案内していただいた。

ゆつくりと走る車の窓から目にしたものは、想像していたことよりも遙かに懸離れた外景であった。道路はすっかり整備され、東京の郊外でも見受けられるような都市計画プロジェクトに基づいた街造りの構図が目に入って来た。平日の午後ということもあり人影はなく、遠くに見える舗道を時折車が横切るといった程度。見慣れた看板が一つ、そして二つ、ここにも少子化の傾向が波及しているのだ

ろうか。活気らしいものは何一つ感じ取れず、騒音の少ない街の佇まいが、あの頃の様相に反して違和感すら感じられ、暫くは唖然としたまま窓越しに通り過ぎる光景を目にすることになった。

室生犀星の『ふるさと』は遠きにありて思ふもの』という詩文を連想させる風景は何処にも見当たらなかった。

人は何処にいるのだろうか。ひよつとすると、いずれは過疎の街になりはしないか、という心配が脳裏を過ぎる。

何を目指し何処へ行くかとしているのだろうか。この変わり様と裏腹に複雑な思いが込み上げてきた。

多分、次世代へ引継ぐお土産さんだろう。そう思った途端、私はほつとして安堵の気持になり、思わず拍手を送りたい心境にすらなった。

向うに上越文化会館が見える舗路を車はゆつくりと進み、ほとんど会話のないまま、次の場所に向った。『私のかへって行く故里が、どこかにとおくあるやうだ』いつか読んだ立原道造の詩の一文が思い浮かび、変に取り留めない心境に浸らされることになってしまった。

人が住み、そして、そこの生活があれれば、状況に適合した変革はむしろ必然的なこと。ここでもその一端を垣間見るこ

とができた。すっかり変貌してしまい、付近全体は街の体裁が整えられている。旧直江津町付近のみを車で窓越しに覗き見ただけで上越市全体の様相を見立てることは出来ないのだが、何かに押し切られ、無理やりに変貌させられてしまった街、というイメージは否めなかった。だがその反面、何かを変えたい、変わりたいという願望も痛いほど感じ取られた。こう思うのは私だけだろうか。

荒川と保倉川の橋を渡り、袂で車を止め二人は降りてみた。見覚えのある懐かしい場所である。高校まで住んでいた家の近くであり、その前を流れていた保倉川の土堤はすっかりコンクリートで改修されている。子供だった頃の様子が次々に思い出され、タイムスリップでもしたような錯覚に陥らされてしまった。車は再び川を渡り、袂にある空地の前で止まった。そこには碑のようなものが建てられている。

「あ、そうだ、ここは太平洋戦争の最中に捕虜収容所があった所だ」と直ぐに記憶が蘇ってきた。そして、これは慰霊碑であることが判った。普段の生活では思いつくことのない遠い記憶が、恰もテレビの画面を見入っているように次々と脳裏を過ぎて行く。収容所は黒く薄汚い倉庫のような粗末なものだったよう覚えてい

るが、この前を通して『国民学校一年生』という唱歌を歌いながら学校へ通ったのはいつの頃だったろうか。

太平洋戦争が勃発し、次第に敗色が濃くなって行くにも拘らず、国威発祥の気運は高まる一方であった。報道機関は大本営発表と称し、事実と反するいい加減な報道をし、学校へ行けば先生が黒板に「神風」とか「大東亜栄圏」「鬼畜米英」「欲しがりません勝までは」等といった字を黒板に書き、一層の闘争心を煽り立てるといった状態であった。

雪の降る朝、工場の近くにあった自宅から学校に行く途中、そこで強制労働を強いられるべく外国人兵士の捕虜が、日本軍の憲兵に連行されて行く列に度々出会った。そして、収容所で死んだ兵士の死体には汚い毛布のようなものが被せられ、担架で工場に運ばれて行く光景を度々目にした。何で死体が工場に運ばれて行くのだろうか。子供心ながら不思議に思えてならなかった。

戦争の怖さは何となく、解かつてはいたが、幼少の頃から軍国教育に洗脳され尽くしてしまった子供心には、空襲で死ぬとか戦死することなど何とも思っていなかった。むしろ潔い死に方とさえ思っていた。このことは偽らざる告白である。

遠くの河口が見える。さほど改修された様子はなかったが、いつの頃から佐渡への航路が開設されたようだった。この辺りは以前どうだったんだろうか。記憶にない。二人はまた車に乗り、二つの橋を渡り、意外に短時間で学校に戻った。

日帰りにすることに決め、人影の少ない駅の広場まで送ってもらい、中井さんと別れた。帰りも同じ経路にすることとし、切符を買って階段を降り、ホームで列車の到着を待った。

かつては愛わり者呼ばわりされ、珍奇な野郎と陰口を叩かれ、再度この地の駅のホームに降りることはないと思っていた所に、今一人で立っている。この事が何故か不思議でならなかった。哀傷にも似た心境に陥ってしまったのは何故だろうか。中途半端に通り過したあの頃の改心が今でも心の片隅にあり、そうさせるのだろうか。平素は振り返ることのない記憶が少しずつ戻り、妙な感慨を伴って脳裡に浮遊し旋回する。そして、いつの間にかこの思いが微かな吐息に変わることになってしまった。私だけの静かな時間でもあった。

やがて列車はホームに入ってきて静かに止まった。窓際に席を取るべく急いで乗り、暫くはぼんやりとホームの周辺を眺めていた。この地を離れておおよそ五

十年近い年月が、つい二十年程前のことのように思われてならない。お構いなく過ぎ去っていく時間と押しもどすことのできない時間との狭間で、そして何時も乗り遅れ引き摺られて行かなければならなかった過去との狭間で、ただ何となく年月を重ねてしまったことの感慨が交錯する。やがて列車は静かにホームを離れて行った。

窓から見える夕方近くの風景には、かつての残像と折り重なるものは殆んどなく、やや秋色を帯びた前景が、次々と一目散に横切って行く様だけが目を素通りして行った。そうだ、過去の厭な思い出は全部鎖で縛り、海の底に沈めて行くことしよう。そうすれば、再度この地を訪れる時にはなんの嫌いな懐かしさだけに浸かっていることができるだろう。そう思った途端、何故かほっとした気持ちに立ち返ることができた。

予定通り分岐点「駅後湯沢」で乗り換え、車内販売で烏龍茶の缶を一つ買った。座席に体を倒し少しづつ飲みながら取り留めない様々なことを思ってみた。

どんな歌詞になるのかな…。風土、環境を入れろということだが…。日本海や妙高山は入るだろうが、米山はどうかなあ…。曲調はどうしようかなあ…。歌詞を讀んでみないと決められないしなあ…。

それにしても今年(平成十八年)の巨人は弱いなあ…。いい駒もっているのに。采配かな…。思わず今朝持つて来た新聞の中間に目が行ってしまう。また来年も夜の楽しみが減ってしまうなあ…。アメリカの大リーグが面白くなりそうだなあ…。中継は午前中が多いのであまり見られないし…。

つい数時間程前に見た街の風景が、次々と目に映り消えて行く。一体この街にとつて、今でも変らないものと言ったら何なんだろうか。保倉川と荒川の濁った水質、やや淀んだ濃い青磁色の日本海、冬そこから吹き上げる強風、妙高連山に棚引く雲の様相。そして、校長先生からお土産に頂いた継続たんこの品のある清楚な甘さ、だけなんだろうか。これ意外に何かあるだろうか。咄嗟に思い出せない。春日山城跡かなあ…。

車内に響く微かな車輪の音と交錯し、暫くは微睡の時を過すうちに、新幹線列車は大宮へ向かって加速して行った。

(平成十九年七月三十一日 記)

高田測候所

八十六年の歴史に「くぎり」 十月から無人化

高田は豪雪地帯であることから測候所の設置運動が起り、大正十一年に県営として大手町に開所、昭和十四年に国営に移管されました。長年にわたる職員による観測業務と桜、梅、カエデ、ウグイス、ツバメなどの動植物、初雪などの季節観測の役目を終え、無人化の計器で新たな役割を果たすことになりました。

「雪の観測をする気象機器の開発、研究試験のメッカ」、高田の雪質とワックスの研究や桜の開花予報としての役割をこなしてきました。

昭和五十一年の豪雪時に書かれた記事（毎日グラフ）に雪国での苦労話が載っておりまして。

「今年もまた豪雪に見舞われた。この地方で雪を呼ぶといわれる「一発雷」の雷鳴

がとどろいたのち、一夜にして一メートル余の積雪を記録した。その後も何時止むことも知れず何日も降り続く「白魔」に、

道路は屋根の高さまで埋まり、屋根にも人の背丈に及ぶ雪塊がのった。横なくりに吹きまくる粉雪に見渡す限り凹凸の無くなったような白一色の景色に町も村も変貌した。こんな中、昼夜通しの三時間ごとの観測、データの発信、地方気象台から出る天気予報と測候所の観測資料との分析・検討をこなしていた。

測候所の構内に立てられた雪尺は四メートル、この日は一メートル九十四センチを記録した。」

八十六年の間に蓄積された基本的な資料は気象庁へ、残りの文献、資料、書籍の殆どは上越市公文書館へ寄贈された。

（編集部）



毎日グラフ（昭和51年2月29日号）より転載



大正11年開所当時の測候所 上越タイムスより転載



毎日グラフ（昭和51年2月29日号）より転載

ふるさと上越市の滝

大綱目野 藤沢勝一郎（東本町四丁目出身）

平成十七年一月一日の平成の大合併により、上越市は分水嶺となる長野県境にも接することになり、全国第十六位の面積を持つ広域な「ふるさと」になった。

ふるさとの主な河川としては、関川、保倉川、名立川、桑取川、柿崎川の五川で、海岸から二十五kmで一、一〇〇m級（関田山脈）、二十kmで一、四〇〇m級（中郷区の不動山）の山に達する。

国土地理院発行の二万五千分の一地図（以下「地図」という）中にある滝記号は七つ。

滝の数は思っていたほど多くなかった。しかし、大島区葛蒲高原にある大滝、小滝のように落差が大きく、見事なものや小なりといえども豪快さ、清楚さ、幽遠さなど風格をもって深潤、樹間にその姿を見せているものもある。滝記号のない溪にも立派な滝があり、地元民や愛好者に

親しまれている。

ただ、見に行くには不便な滝もあり、車を使い、山道を歩き、川を遡り、季節によっては敷漕ぎをしたり、熊除けの鈴（出来るだけ大きな音の出るもの）や携帯ラジオ（谷部へ入ると音が出なくなる）こと有り持参等対策が必要になる所もある。また、スズメ蜂（初夏から秋にも気を付けなければならぬ）。

今回紹介するのは、三年ほど前から「ふるさと上越ネットワーク（略称Jネット）」（事務局：上越市企画・地域振興部 企画政策課）が春と秋に実施する「ふるさと交流会」や法事・お盆等で上越市へ帰省した時に、市立図書館で調べたり、地図を基に現地に行き、話を聞いた写真等を撮ったものである。

滝の落差については、町史・村史等に記載が無かったり、公的機関でも不明で

あったため、ほとんどは目測によった。また、滝名が不明であったものについては、仮称とした。

滝を見に行くに当たっては、天候や道路事情、滝周辺状況（熊など）、水量、自身の体力等を十分に考慮願いたい。

平成五年七月、当時の新井市で地図に記されていない落差三十〜四十mの滝、十本が市民グループによって見つけられたと報じられたこともあるのだから、上越市域にももっとあつていいはずである。

一、大滝、小滝（大島区）

保倉川は、大島区と長野県境の野々海峠近くを源流としており、大島区葛蒲高原の駐車場のある滝見台からは、二つの大きな滝を同時に見ることができ、距離が五〇〇m程あるため滝音は聞こえない。向かって右が大滝、左が小滝である。大滝は落差五十mで一段の滝、その上にも五m位の小さな滝が見える。

小滝は三段で落差七十m、今回訪れた滝の中では一番落差がある。三段目からは、落差五十m。大滝と並んで二本の白い布が垂れ下がっているように見える。

二つの滝は、いずれも源流部近くにある流域も広くないが故に、梅雨や雪解けの時期と夏の渇水期とは、水量も随分と違ふ。

ゴールデンウィークの雪解けの頃は、

水量も多く眺めは豪快で、山肌の萌黄色の木々とその中に咲く桜の花との素晴らしい景色を見ることが出来る。しかし、渇水期の八月には、そうめんのように細くなってしまう。

葛蒲高原の滝見台へは、国道四〇五号沿いの葛蒲東集落から、堀切川沿いの道か保倉川沿いの県道三三八号を通過して、車で容易に行ける。

葛蒲高原には、管理棟を兼ねたバルハウス、コテージ（台所、水洗トイレ、浴室等が整備）やキャンプ場もあり、グループや家族で楽しむことが出来る。



二、保倉滝第X(仮称)、第一、第二、第三(大島区)

この滝は、葛蒲高原滝見台から見るこ
とが出来ないので、葛蒲高原下の広域基
幹林道菱ヶ岳線の「葛蒲橋」から保倉川を
廻ることにした。

川へは、橋のすぐ近くの砂防ダムから
降りる。八月は渇水期でもあり、水量は少
ない。

ヘルメットをかぶり、地下足袋を履き、
熊避けのため腰腹に大きな鈴と携帯用蚊
取り線香をぶら下げ、妻と義母が心配し
て持たせてくれた長さ九十cm程のステッ
レスパイプで石をたたきながら、石ころ
だらけの川を歩き始める。珍妙な格好だ。
十五分で最初の分岐となり、左は大滝、小
滝へ通じる溪である。

更に三十分ほど遡行すると再び分岐と
なり、左の溪を一〇〇m行つた所に保倉
滝第Xがある。

この滝は落差七m、水量は少ない。滝つ
ばの深さは一m、水はとでもきれいだ。

滝の上へ行こうとしたが、足場の確保
が難しく、巻き道も見つからない。

「地図での滝記号は、分岐から二五〇m
ほどの所なのに、一〇〇mとは近すぎる」
と思いつつここから引き返さざるを得な
くなった。

砂防ダムまであと二〇〇mほどという
所まで引き返した時、二三十m先の草む

らの中から突然に灰茶色がかつた動物。
一瞬「・・・クマ?・・・凍りついた。

よく見たらツノがある。カモシカ
だつた。相手もびびくりしたろうが、こっ
ちもびびくりした。ここで遭えるなんて
ラッキー!しかし、そうとはかりも言え
ない。高原周辺には「クマ注意」の看板が
いくつも建ててあったのだ。

車で葛蒲高原を野々海峠の方へ進み、

途中から双眼鏡で見たら地図どおり分岐
から二五〇mの所の滝が見えるかも知れ
ないと思いつつ、オートキャンプ場手前
の林道から覗いた。在つた、しかも三つ。
地図の滝記号は一つ。複数の滝をひとま
とめにしちゃつたのかなあ。

しかし、三倍ズームのデジカメで撮る
には、無理な距離であつた。

上流部から下流部に向かい保倉滝第一、
第二、第三と仮称した。それぞれの落差は、
十m、五m、十五m。いずれも水流はそう
めんクラスで細い。第三と第Xの間に滝
が無ければ第Xは第四になる。



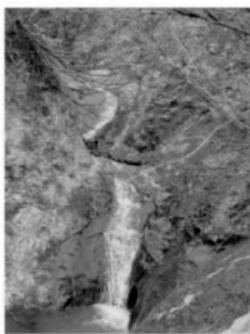
しかし、この三つの滝は、引き返した分
岐を更に遡行した溪に在るのかも知れな
い。

三、大島滝(仮称)(大島区)

葛蒲高原下の広域基幹林道菱ヶ岳線の
「葛蒲橋」から、葛蒲東集落へ向かつて舗
装された細い道沿いを〇・八kmほど進む
と保倉川へ流れ込む支流がある。

この滝は、支流と交差した林道の直ぐ
右山側に、左カーブしながら川底を舐め
るようにして流れ落ちる二段、落差十m
ほどの滝で、地図には記載されていない。
夏場は、木々や草に半ば覆われており、

道路際に草が繁茂していたらうっかりす
ると見逃してしまいそうである。水量が
多いとは言えないが、楚々としたこの滝
は、幅二m、長さ三m、深さ一mほどの滝
つばを持つている。



山温泉の中間あたりから、田妻川沿いの
県道一三号を約二・五km進み、県道七八号
と交わる所近くに板山不動尊の駐車場が
ある。駐車場脇を下り、木の橋を渡り、杉
木立の昼なお薄暗い川沿いの道を五分ほ
ど歩くと間口三十m、奥行十三m、高さ一
八mの半月形水成岩洞窟がある。洞窟内
には、不動尊が祀られ二百数十体の石仏
が安置されている。

滝は洞窟のすぐ右側にあり、落差五m、
堂々としている。夏場でも水量は、春先と
同じ位にあつた。滝下の川は浅く水もき
れいで、子供達が水遊びするにはもつて
こいといつた感じである。

不動尊は、昭和四十九年九月、当時の大
島村指定文化財第二号として登録されて
いる。

不動明王が、目の病に靈験あらたかだ
あることが遠近に知れ渡り、かつては、老
若男女の参詣が絶えず、奉納相撲や芝居
もあつて賑わつていたとのことであるが、
現在は実に静寂である。参道には、現在の
若い人はあまり知らないだろうが、田中
彰治元代議士名が刻まれた苔むした休憩
所碑もあった。

四、板山不動の滝(大島区)

国道二五三号沿いにある細越集落と大
少し行くくと非常に珍しい岩屋がある。

伝説によれば、この不動尊は、衆生済度
のため諸国を遍歴していた役行者が、こ
の近くの小海の池のほとりを通ると金色
燦然と輝く不動明王が現れ、ここから北

吾をそこへ安置せよ。」とのお告げを受け、この地に不動明王の像をお迎えし、一寺を建立してこの地を霊場としたのが始まりだという。

ここから四〇〇mほど離れた所にある小海の池は、水面一八、〇〇〇m²の自然の池で、底なし、土が硬くとも言われている。

駐車場の前

や川辺には「大島わき水十選」の一つに選定されている清冽で、夏でも冷たい湧き水があり、のどを潤すことが出来る。



五、いすずくらの滝(安塚区)

滝は、国道四〇五号沿い船倉川の樽田集落と下船倉集落の中ほどにあり、落差十五m、樽田層火山角礫岩の一段の滝で、轟音を立てて流れ落ちる。周囲が開けているせいか開放的な感じがする。国道脇に安塚八景④ いすずくらの滝の看板があり、車二、三台が駐車できるスペースがある。ここから滝のほぼ全景を見ることができ、水量は比較的多く、堂々として流れる。

樽田川の入り口に、いすずくらと呼ばれる所がある。急な崖で、地層を見ると石臼を横から見た形に似ているので名付けられ、石臼倉(いしうすくら)が訛って「いすずくら」となったものであろうとのことである。滝の名前は、ここから名付けられたものである。

ちなみに「倉」とは、崖、岩場を意味する。

区内には次に紹介する「滝の倉」も同じ意味で使われており、谷川岳の一の倉や千の倉などが有名である。また、高(くら)と書くこともある。この高の付いた山には、尾瀬国立公園にある燧ヶ岳の俎高(まないたくら)、柴安高(しばやすくら)があり、岩場である。



六、滝の倉(安塚区)

国道四〇五号沿いの「景勝」水の源

切越と書かれた看板の所から、朴ノ木川沿いの切越集落に入り、切越戸沢線の「切越橋」を渡ってすぐ右の舗装された細い山道を五分ほど歩くと、右手眼下の川に



岩が階段状になっているのが見える。

滝下へは、ここから急な斜面を三分ほど下れば行くこともできるが、夏場は一面に草が繁茂していて困難である。滝は、朴ノ木川ダム直下にあるため減水区間すらなく、岩が階段状に連なっているだけ、滝とは思えないのが残念である。

しかし、降雨等により溢水したりダム放水された時には、落差二十m、勾配十五度を一気に流れ落ちる見ごたえのある階段滝に変身すると思われる。

滝下の川に流れ込む湧き水は、澄んでいてとてもきれいだ。地元の方の話によれば、ダムが出来た以前の川は、水がきれいで泳ぎも出来たし、ニジマスもたくさん捕れたが今はない。最近では、ようやくハヤ(ウグイ)が捕れるようになるまで水質が回復したとのことである。

車は、集落内を直進して安塚町簡易水道浄水場の駐車場に置くことが出来る。この浄水場から橋までは、歩いて五分ほどである。細い山道は、車のすれ違いが出

来ないし、Uターンする場所もあまりない。また、舗装表面が粘土質の土で薄く覆われているため、スリップしやすしい。

七、不動滝、菱ヶ滝(仮称)(安塚区)

両滝とも菱ヶ岳(二二九m)直下の小黒川源流部にある。不動滝は二段になっていて、落差三十m。夏場でも春先と変わらないほど水量は豊富で、轟音を立てて流れ落ちている。菱ヶ滝は落差十m、大きな岩石表面を流れ落ちる一段の滝であるが、水量は少ない。

国道四〇三号沿いのゆきだるま温泉、キュービッドパレイスキー場から六kmほど長野県境の伏野峠に向けて進むと「不動滝 歩いて十五分、足元に注意して下さい」という標識の建っている十台ほどの駐車スペースの有る広場に出る。このあたりは、菱ヶ岳自然観察教育林、水源かん養保安林(俎倉まないたくら)国有林)になっており、ブナの巨木が沢山ある。菱ヶ滝は、ここから樹林の中、急坂数箇所設けられたロープに捕まりながら十分ほど降りて行くと、右側に見える。足元が崖の上なので注意を要する。更に五分ほど下ると、草が生い茂り、ブナの巨木が目につく台地状の広場になる。ここから、樹林越しに轟音を立てて流れ落ちる不動滝が見える。道がないので苦労はするが、滝下へも行くことができる。

滝のそばや周辺には、マグマが上昇して地表に出ずに固まった火成石と呼ばれる珍しい貫入岩体があり、地図にも記載されている。

不動滝の上流部川岸には垂炭層を挟む軽石質の凝灰岩層が露出していて、この凝灰岩層には、径一mmくらいのガーネットが含まれているとのことだ。



八. 高谷大滝(弁慶滝)(牧区)

国道四〇五号沿いの牧区高谷集落から浦川原区に入る少し手前、道路すぐ右側にある落差十m、上部が四段になっている滝で、弁慶滝とも名付けられている。

降雨時や雪解け時以外の水量は、少ない。

地元の方の話によれば、数十年前までは単に大滝と呼んでおり、その頃はもっと水量も落差もあり、滝つぼの深さも一mはあった。しかし、土砂崩れと国道改修により、滝つぼは埋められ、路面も二mは高くなって現在のようになった。また、水

源は滝上流のきれいな湧水であったが、そこも土砂崩れで埋まってしまい、湧水量も少なくなってしまうとのことである。

別名である弁慶滝の由来については、滝壁の下から上まで馬の蹄ほどの穴が直線的に付いており、それは「弁慶が馬に乗って駆け上がった時に出来た穴」と言われていたことから、五年ほど前に地元の方々が名付けたもので、滝の標識はその時建てられたものである。

—そうすると、義経もこのあたりを通ったのかある。



九. 荒沢不動の滝(浦川原区)

ほくほく線浦川原駅近くから県道六一号に入り約一・五km、県道沿いにある「荒沢不動尊」の案内標識に従って上岡集落の一本道を進むこと約三km。両側に田んぼが広がっている。

不動尊入り口に平成八年に関川姫川水百選選定委員会・建設省高田工事事務所によって選定されたという「荒沢不動尊

と滝」の銘板が埋め込まれた大きな石がある。この奥の不動堂の横を進むと不動尊と滝がある。

こは、上岡集落にそそぐ猿俣川の上流水源地で県指定自然公園雁金山の麓。

滝は、断崖から流れ落ち落差七m。水量こそ少ないがきれいな水だ。周囲が太いケヤキなどの樹木に囲まれているため、静寂で少々薄暗い。滝の傍らの断崖には、半円状の三〜四mの岩窟が掘られ、江戸時代の作である石造不動明王が祀られている。また、滝の横断崖に穿かれた石龜せきがんに納められた石造不動は、室町時代の作であり、苔むして歴史を感じさせる。

この不動尊は、災難・病魔退散・厄除け不動として、地元・頸北地方の人々の信仰を集めているという。



で流れ落ちる。水量は豊富で、滝の上がY字形に開けているため、開放的な感じがする。上越市にはこの名の清酒もある。

滝へは、県道一九八号を通り清里区梨平集落または赤池集落、あるいは国道四〇五号を通り牧区府殿集落から道路の行き止まり近くまで行く。行き止まりには「新潟県上越林業事務所 水印工 平成十年度」の銘板のある砂防ダムがあり、その手前三〇〇mほどの所に車三台ほど駐車できるスペースがある。

ここから草原を降り、二本の支流にかかっている鉄製足場を渡り、梨平峠への山道を十五分ほど歩くと祠のある場所へ着く。滝は、ここから展望でき、かすかに滝音が聞こえる。ただ梨平峠への山道は、夏場になると道が分からなくなるくらい草に覆われてしまうので、注意を要する。祠から更に三・一kmほど山道を行けば、そこは長野県境の梨平峠である。

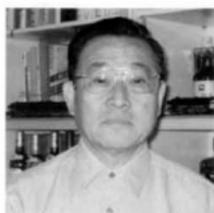
十. 清滝(清里区)

梨平峠直下の清滝川源流部にある滝で、頭部がY字形になった三段、落差二十m



相馬御風と早稲田大学

横浜市 中村眞和（直江津町出身）



わが母校、早稲田大学は、今年（二〇〇七年）一〇月二日、創立二二五周年の記念式典を盛大に挙行し、次の二二五周年第二（世紀）をスタートした。

一二五年を重視するのは、大隈重信が「人間は本来、二二歳の寿命を有している」という説を唱えていたことによる。それ故、創立四五周年（昭和二年）に作られ、重要文化財に指定されている大隈講堂の時計塔の高さは二二五尺であり、昨年竣工した大隈記念タワーの高さは、その二倍の二五〇尺（約七六m）である。

一八八二年に設立した東京専門学校は、創立二〇周年に「早稲田大学」と改称し、創立二五周年（一九〇七年）には、校歌を制定することとなり、坪内逍遙と島村抱月が担当した。当初は懸賞募集で学生から公募したが、良い作品がなかったため、

北原白秋の「在学生ではなく、卒業生から」という意見により、抱月が前年文学科を卒業し詩才のある相馬御風に作詞を依頼することになった。作曲は東儀鉄笛が担当した。今年、校歌が制定されて、一〇〇周年に当たり、校歌と共に活躍してきた「早稲田大学グリークラブ」も一〇〇年になる。

相馬御風（1888-1950・本名・昌治・桑 謙に M. Sano のサインあり）は、新潟県の糸魚川町に生まれ、高田中学（現在の県立高田高校）を経て早稲田大学に入学、一九〇六年卒業、その後早稲田大学の講師もしていたが、晩年は故郷糸魚川に戻り良寛の研究に携わっていた。

御風は、早稲田大学の校歌「都の西北」以外に、日本大学校歌（作曲・山田耕作）や全国各地の多くの小中学校の校歌の作詞に携わっている。

校名の由来について、創立者大隈重信の別邸が東京府豊島郡早稲田村にあったことから、東京専門学校は大学になる前から早稲田学校とも言われていた。早稲田の近くに高田馬場という地名があるが、なぜ馬場の名前として「高田」なのか。徳川家康の六男松平忠輝の生母茶阿局が庭園を開いていた場所であり、忠輝が越後の国の高田藩主になっていた

（二六一〇年）ため、そのように言われる様になった。

早稲田の帽章の稲穂の粒数が左右とも一九である。これは創立年の一八八二年が一九世紀であり、一八八二年の数字を足し算すると一九になるところに理由があるとされている。

若き日の大隈重信の提案として知られている話がある。明治維新後いろいろの所で手腕を発揮していた重信が、会計官副知事であったころ、政府の財政を改善するために考えたと言われる。

日本では、それまでカレンダーは太陽暦（天保暦）であったが、明治六年一月一日から太陽暦にするという提案である。その結果として、明治五年二月は二日までとなり、また翌年の天保暦の明治六年は閏年であり閏月を含めて一三か月ある予定であったため、合計二か月分の役人の月給を支給する必要がなくなったということである。この功績によるものか、大隈重信は、明治六年五月、大蔵省事務総裁になった。

明治政府は、大変良かったかもしれないが、大晦日がなくなったため、掛け売りをしていた商人は、大慌ての年末になってしまった。



大隈講堂（2007）と相馬御風（1906 糸魚川歴史民俗資料館）



信越線の歴史

著者 岡村 普（西本町出身）

十月、信越線「直江津―柏崎間」開通の一〇〇周年記念イベントでSレえちし日本海号（C57-180）が、中越沖地震から復旧間もない日本海ラインを快走し、直江津駅には大勢の家族連れや鉄道ファンが出迎えました。鉄道の町「直江津」の一時の復活と言ったところでしょうか。

全国の鉄道ファンの間でも、上越市の名は知らなくても直江津の名はよく知っていると言う人が多いようです。でも、その鉄道ファンでも意外と勘違いしているのが、信越線の起点終点です。「ネット」の皆さんなら説明の必要はありませんが、新潟―高崎（注）現在は新潟―篠ノ井横川―高崎に分断）が正解です。それが直江津―高崎と勘違いされることが多かったのです。無理ありません、列車の運行体系が直江津を境に分かれるからです。同じ信越線といえながら、全線直通の列



車が皆無に近かったのです。

でも、それはあくまで近年での話。実は今でこそ新潟―東京間は新幹線を含め上越線が主要ルートですが、それは昭和六年以上上越線が全通してからのことで、それ以前は直江津経由の信越線が新潟―東京の主要ルートだったわけですね。

ここで、面白い事実が気付きませんか。つまり、信越線は上越線より先に全線開通していたということ。確かに上越線には三国峠という難所がありました。これが開通を遅らせていたことは事実です。でも、信越線も碓氷峠をはじめ、難所が多いのは一緒です。では、なぜ信越線のほうが早かったのだろうか。

今、筆者の手元には明治二十二年の全国鉄道地図（複製版）がありますが、本当はここに転載したいのですが紙面の都合

で割愛。今度「ネット」サロンでこちらに入れましょう。この時点で直江津―軽井沢、横川―高崎―上野は開通しています。他地域に目を向けると東海道は全通していますが、山陽線は尾道―下関はまだ建設中、東北線は青森まで全通していますが北海道は小樽（手宮）―砂川だけ開通、北陸線は米原―敦賀だけ開通、九州では門司―熊本、鳥栖―佐賀だけ開通、あと関東、近畿はある程度路線が出来ているが山陰、日本海縦貫路線は、影も形も無し。そして、松本―甲府が建設中となっております。

これから全国的に見ても、信越線（直江津―高崎部分）が相当早い時期に建設されていることがわかります。

この背景は何だったのでしょうか。実は「中山道幹線」計画と関係があります。

東京―大阪を結ぶ路線として東海道線はいち早く開通していましたが、第二東海道として、中山道幹線が計画されていたのです。ルートはその名称の通り旧中山道のルートです。高崎―軽井沢はその一部として、そして軽井沢―直江津はその資材運搬のため建設されたものです。資材運搬とは直江津港を利用することと関係があります。米原―敦賀が早期に開通したのも同様の理由です。よく交通の要衝という言葉が全国のあちこちの町に使われますが、その中でも直江津は群を

抜いていたのではないのでしょうか。

一方、直江津―新潟間の歴史ですが、当初直江津―黒井間の関川には鉄橋が無く、対岸の春日新田から民営の北越鉄道が新潟まで開業し、国有化はのちの一九〇七年になります。

興に乗ってきたところで、更に上越地方の他の鉄道の歴史、幻の計画線等にも触れてみたいと思つたのですが、そろそろ紙面の関係でお開き、また次回をお楽しみに、とさせていただきます。ところで、次回紙面作りの為、及び個人の趣味の為、上越地方の明治―昭和の古地図を収集しております。勿論複写でかまいませんので、お持ちの方、ご提供していただければ幸いに存じます。



上越タイムスより

私の買ったコシヒカリ上越米

三浦 永島セツ（佐内町出身）

Bさん「早速頂きました。焼き海苔をおかずにおかわりです。お言葉に甘えて次の上越米購入をお願いします。十二、一、十二、二、十二、三 各五キロ」

Cさん「到来物の松茸があり、松茸ご飯で、至福の時でした。」

Dさん「天日干しの新米有り難う。早速お塩だけのおにぎりを作り賞味しました。銀舍利とは正にこのご飯とつくづく思います。」

Eさん「宝石のような美しいお米に珍味のふりかけも嬉しく、早速頂きました。冷えても艶があつて、美味しい。おかずなんて要らないわ。越後大使がなほってね！」

Fさん「何時も心遣い有り難う。やっぱりお米は元気の元ですね。実感してます。」

Gさん「なかなか入手困難な美味しい特別栽培米有り難う。家内も喜んで食しております。」

これからも色々なコシヒカリを多くの友達に試食して頂き、多少なりとも上越をPRしようと考えています。あら！また米の注文が届きました。

先日Jネットから上越米の通信販売カタログが届けられた。各地区で栽培されているコシヒカリが三十五種類あつた。全てのコメントを読んでから、頸城建設不動産部（蒲川原区）産と正善寺工場の各三種類を選んで試食した。私は日常生活物を選ぶ場合には、「安全」であること、「作り手が分かっていること」を基準にしている。

頸城建設不動産部を選んだのは、

- ①JAS有機栽培米 ハサ掛け、有機米・無化学肥料・無農薬であり、天日干し米は一品であるとのコメントがあつたからです。但し高価
- ②JAS有機栽培
- ③有機肥料による農薬、化学肥料を使わない

正善寺工房からは、従来からその会員となり、棚田の「恵みっ子」を玄米で購入していた。今回は、無化学肥料・除草剤未使用、無化学肥料・除草剤の使用一回、減化学肥料・除草剤の使用一回の三種を購入した。

- ①センター承認
- ②JAS有機栽培
- ③センター承認 特別栽培米
- ④新潟県承認 特別栽培米

十二人の親しい友達に送り賞味して頂きました。

Aさん「最上のコシヒカリを頂き有り難う御座いました。驚くばかりの銀舍利。見た目の美しさとスゴく美味しいご飯でした。夫は何杯もおかわりです。」

■注文方法

Jネット会員専用注文紙で事務局宛 FAX〇二五―五二六―八三六三〇をお送り下さい。

※会員の方は送料無料です。

■お問い合わせ

上越市役所企画政策課内Jネット事務局
電話 〇二五―五二六―五一―一

（内線一四五五）



上越米

通信販売カタログ (平成 19 年秋号)

おいしい新米をどうぞ!

米山山地、東頸城丘陵、関田山脈、南葉山地、西頸城山地など、上越市をとり囲む山々からの雪解け水で育まれた上越米。上越地域では、米を栽培するにあたって、農薬や化学肥料を減らす取り組みに、地域一丸となって取り組んでいます。「上越米」は、ふるさとからお送りする安全・安心なお米です。



【1】(農)源広域生産組合(吉川区)

代表者 曾根 偲

住所 上越市吉川区山直海1706 (〒949-3562)

電話 025-547-2604 FAX 025-547-2604

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
①-1	こしひかり 減農薬減化学肥料栽培	5kg	3,500円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 減化学肥料・減農薬・除草剤使用1回
- 3 品質 一等級
- 4 その他 栽培の履歴有り・除湿通風乾燥



【2】(財)大島農業振興公社(大島区)

代表者 中條勝夫

住所 上越市大島区牛ヶ鼻2649 (〒942-1215)

電話 025-594-2856 FAX 025-594-2860

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
②-1	おおしま育ち 白米	5kg	2,800円
②-2	おおしま育ち 白米	10kg	5,600円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 慣行米・除草剤使用1回
- 3 品質 一等級
- 4 食味 内部品質玄米Aランク
外部品質玄米Aランク
(AN800&RN500分析結果)
- 5 その他 栽培の履歴有り



【3】(財)牧農林業振興公社(牧区)

理事長 中川耕平

住所 上越市牧区柳島482-1 (〒943-0647)

電話 025-533-6763 FAX 025-533-6805

商品番号	商品名	内容量	価格(税込)
③-1	農薬・化学肥料を3割減らして栽培された米 牧産コシヒカリ 100%	5kg	2,800円
③-2	玄米の栄養分が残っている米 (ビタミンB1・E、ミネラル等) 牧産コシヒカリ 100% 7分づき	5kg	2,800円
③-3※	こしが強く、餅にするとよく伸びるもち米 牧産こがねもち 100%	5kg	2,800円

- 1 品種 コシヒカリ(100%)
- 2 栽培方法 3割減農薬・3割減化学肥料除草剤1回使用
- 3 品質 一等級
- 4 食味 香りが良く、食味良好
- 5 その他 栽培の履歴有り

- ※ 1 品種 こがねもち(100%)
- 2 栽培方法 慣行栽培除草剤1回使用
- 3 品質 一等米
- 4 食味 こしが強く、食味良好
- 5 その他 栽培履歴あり《限定36個販売》



【4】味の謎蔵（特選米販売部）(三和区)

代表取締役 石塚 賢

住所 上越市三和区大867-1 (〒943-0314)

電話 025-532-4226 FAX 025-532-4189



商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
④-1	さんわ産純粋コシヒカリ	5 kg	3,300円
④-2	さんわ産純粋コシヒカリ	10 kg	6,000円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 完熟鶏糞を主体とした土づくりにより食味指数の高いお米だけを精米直後に皆様にご購入戴いております。たくさんの方からとても美味しいと賞賛戴いております。

【5】(有)グリーンファーム清里(清里区)

代表取締役 保坂一八

住所 上越市清里区上田島122 (〒943-0504)

電話 025-528-4270 FAX 025-528-4270



商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑤-1	清里産コシヒカリ	5 kg	2,400円
⑤-2	清里産コシヒカリ	27 kg	10,500円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 最良

5 その他 栽培の履歴有り

【6】(有)名立テクニカルファーム(名立区)

代表取締役社長 高宮靖之

住所 上越市名立区瀬戸751-3 (〒949-1625)

電話 025-538-2821 FAX 025-538-2821



商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑥-1	名立のコシヒカリ (白米)	5 kg	2,500円
⑥-2	名立のコシヒカリ (白米)	10 kg	5,000円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 慣行米・除草剤使用1回

3 品質 一等級

4 その他 栽培の履歴有り

【7】(農)大潟ナショナルカントリー (大潟区)

代表理事 竹田香苗

住所 上越市大潟区潟田581-1 (〒949-3121)

電話 025-535-1126 FAX 025-534-2671



商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑦-1	JAS認証・新潟県認証 特選コシヒカリ	5 kg	2,900円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 減農薬・除草剤使用1回

3 品質 一等級JAS認証新潟県認証

4 その他 栽培の履歴有り

【8】(有)朝日池総合農場 (大潟区)

代表取締役 平沢栄一

住所 上越市大潟区内雁子252-1 (〒949-3135)

電話 025-534-5955 FAX 025-534-5956



商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑧-1	NPO法人 赤とんぼ認証 JAS・有機栽培米コシヒカリ100%	5kg	3,500円
⑧-2 ※	新潟県認証栽培米コシヒカリ100%	5kg	2,900円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 有機米・除草剤未使用

3 品質 一等級NPO法人赤とんぼ認証JAS認証

4 食味 良食味

※ 1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 減化学肥料・減農薬・除草剤使用1回

3 品質 一等級新潟県認証

4 食味 良食味

【9】柿崎雪むろ利用組合 (柿崎区)

代表者 楡井辰雄

住所 上越市柿崎区馬正面1012-乙 (〒949-3214)

電話 025-536-4453 FAX 025-536-6116

商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑨-1	新潟県認証 コシヒカリ	5kg	3,200円
⑨-2	新潟県認証 コシヒカリ (雪中貯蔵米)	5kg	3,450円
⑨-3	新潟県認証 コシヒカリ (雪中貯蔵・無洗米)	5kg	3,500円
⑨-4 ※	慣行栽培 コシヒカリ	5kg	2,500円
⑨-5 ※	慣行栽培 コシヒカリ (無洗米)	5kg	2,550円



1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 減化学肥料・減農薬

3 品質 一等級新潟県認証

4 食味 良

5 その他 栽培の履歴有り

※ 1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 慣行米

3 品質 一等級

4 食味 良

5 その他 栽培の履歴有り

【10】頸城建設(株)不動農産部 (蒲川原区)

代表取締役社長 小池保信

住所 上越市蒲川原区下猪子田95-3 (〒942-0303)

電話 025-599-2216(フリーダイヤル0120-59-8343) FAX 025-599-2364



商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑩-1	NPO法人 赤とんぼ認証 JAS有機栽培米コシヒカリ ハサ掛け	1kg	1,600円
⑩-2	NPO法人 赤とんぼ認証 JAS有機栽培米コシヒカリ	5kg	6,000円
⑩-3 ※	有機肥料による農薬・化学肥料を使わない コシヒカリ	5kg	5,500円
⑩-4 ※	有機肥料による化学肥料を使わない減農薬 コシヒカリ	5kg	2,600円

1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 有機米・無化学肥料・無農薬

3 品質 一等級NPO法人赤とんぼ認証JAS認証

4 食味 良冷めてもおいしい

5 その他 栽培の履歴有りハサ掛け天日乾燥(一部商品)

※ 1 品種 コシヒカリ(100%)

2 栽培方法 有機米・無化学肥料・無農薬/有機米・
無化学肥料・減農薬88.9%

3 品質 一等級

4 食味 良冷めてもおいしい

5 その他 栽培の履歴有り

【11】(財)浦川原農業振興公社 (浦川原区)

理事長 原 恒博

住所 上越市浦川原区顕聖寺382-1 (〒942-0314)

電話 025-599-3882 FAX 025-599-2870

商品番号	商品名	内容量	価格 (税込)
⑪-1	浦川原産コシヒカリ	5 kg	2,500円
⑪-2	浦川原産コシヒカリ	10 kg	5,000円

1 品種 コシヒカリ (100%)

2 栽培方法 慣行米・除草剤使用1回

3 品質 一等級

4 食味 良食味

5 その他 栽培の履歴有り



【12】正善寺工房 (NPO法人食の工房ネットワーク) (合併前の上越市)

代表者 小川雅子

住所 上越市下正善寺1027-2 (〒943-0813)

電話 025-523-0621 FAX 025-523-0621



商品番号	商品名 (品種・認証等)	栽培方法	内容量	価格 (税込)
⑫-1	センター認証 JAS・有機栽培米 コシヒカリ100%	無化学肥料 除草剤未使用	5 kg	4,200円
⑫-2	センター認証 特別栽培米 コシヒカリ100%	無化学肥料 除草剤使用1回	5 kg	3,675円
⑫-3	新潟県認証 特別栽培米 コシヒカリ100%	減化学肥料 除草剤使用1回	5 kg	3,255円
⑫-4	慣行栽培米 コシヒカリ100%	慣行米 除草剤使用1回	5 kg	2,940円
⑫-5	無洗米慣行栽培米 コシヒカリ100%	慣行米 除草剤使用1回	5 kg	3,040円
⑫-6	センター認証 特別栽培米 紫黒米 (もち米)	有機米・無化学肥料 除草剤未使用	1 kg	1,575円
⑫-7	センター認証 特別栽培米 こがねもち (もち米)	無化学肥料 除草剤使用1回	2 kg	1,575円
⑫-8	センター認証 特別栽培米 紫黒米 (うるち米)	有機米・無化学肥料 除草剤使用1回	1 kg	1,575円
⑫-9	センター認証 特別栽培米 低タンパク米 (春陽)	無化学肥料 除草剤使用1回	5 kg	3,675円

1 品質 一等級

2 食味 良食味・5つ星★★★★★

3 その他 栽培の履歴有り

『上越・雪室仕込み』 創出事業のとりくみ

社団法人上越青年会議所 星野明光

（社）上越青年会議所では昨年より「地域ブランド」への取り組みをいくつか行ってきました。その一つとして改めて

再発見した地域の資源が『雪室』です。雪の降らない地域にはなじみの薄いものでしょうが、要は雪を貯めておく蔵のようなもの。冷蔵庫が普及しなかった頃、夏に氷状になった雪を利用するために工夫を凝らし、貯蔵した先人の知恵であり、豪雪地帯として知られる北陸地方のなかでも、新潟県上越地域には特に多く存在したことが明らかになっていま

す。
電気冷蔵庫の普及に伴い、必要性の低下から数を減らした『雪室』ですが、雪をクリーンエネルギーとして活用するという観点から、その冷熱を利用した雪冷房の実践や低温多湿（温度0〜5℃、湿度89〜95％）の室内環境が食品への好影

響をもたらすことが見直され、今現在、上越市には十四箇所の雪室が存在し、その数は日本一です。

そしてまた、上越地域には、一定期間雪の上に食材をさらしたり、食材や加工品を雪室や雪中で貯蔵・熟成させることにより品質や食味を向上させた付加価値の高い商品づくりを実践している事業所が複数あることを知り、こうした事業所のネットワーク化を図ることにより新たな地域ブランドを創出する事業を立案しました。これが、新地域ブランド『上越・雪室仕込み』創出事業です。

また、雪室の機能や有効性を地域の生産者や事業所に紹介し、新たな商品開発の可能性を探りました。味噌とコーヒー豆を雪室貯蔵して試作を重ねた結果、明らか味覚の変化を実証し、今春より商品化が叶い、店頭販売等で実績を挙げて

います。また、雪室貯蔵によって著しく甘みを増したジャガイモ（さつまいものような味覚）を使ったコロッケも商品化に向け試作を重ねています。

地方新聞等にも取り組みをご紹介いただき、本年一月には、NHK「おはよう日本」にも取り上げていただき、関東甲信越地方をエリアに放映されました。

本事業は、本年より（社）上越青年会議所、上越市、（財）雪たるま財団、そして事業所の皆様で構成する「地域ブランド『上越・雪室仕込み』推進協議会」に運営母体に移し、活動を継続しています。

今後は、地域ブランド『上越・雪室仕込み』が地域の皆様に知られ、広まり、愛されるものに育っていくと同時に、雪の持つ「清廉・純粹・静寂」といった情緒的価値と雪室の持つ「食味の向上」といった機能的価値を明確に打ち出し、全国の皆様に「ぜひ味わってみたい！」と言っていただけのようなユニークでオリジナリティーあふれる地域ブランドになっていくことを希望し、活動して参ります。

また、今年6月に開催いたしました第二十六回全国城下町シンポジウム上越大会においても、地域物産展にて『上越・雪室仕込み』のブースを出展しました。興味のある方、是非この機会に、上越ならではの土産にお求めください！



上越火力発電所 建設工事の概要

中部電力株式会社上越火力建設所

皆様には、私ども中部電力の事業につきまして、平素よりひとかたならぬご理解とご協力を賜り、お礼申し上げます。

弊社は平成十九年四月より直江津港荒浜ふ頭地区において上越火力発電所の建設工事を開始しました。

当発電所は、安定供給の確保と地球環境保全を両立するため、クリーンエネルギーであるLNGを燃料とし、ガスタービンと蒸気タービンを組み合わせた発電効率の高いコンバインドサイクル発電方式を採用することで環境保全に配慮することにも競争力のある発電所としての開発を進めています。

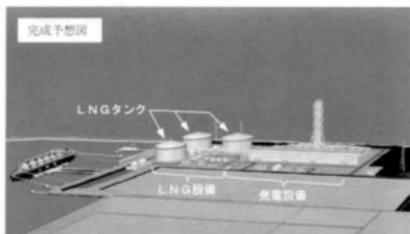
上越地点での火力発電所の建設は、長野県方面への電力安定供給の面から必要であり、直江津港は火力発電所として必要な用地、燃料受け入れ施設等の立地条件が具備されており最適と判断した経緯

にあります。

建設工程につきましては、一号系列は、平成二十四年七月(一)号および平成二十五(一)号の運転開始に向け建設を進めております。二号系列(二)号は、平成二十年四月の着工、平成二十五年

七月の運転開始に向け準備を進めております。

地元の皆様方のご理解、ご支援のもと、無事故・無災害でLNG設備、発電



発電所設備概要

	2号系列	
出力	119万kW (59.5万kW×2)	119万kW (59.5万kW×2)
発電方式	コンバインドサイクル 発電方式	コンバインドサイクル 発電方式
燃料	LNG (液化天然ガス)	LNG (液化天然ガス)

所在地 ……新潟県上越市八千浦2番地
敷地面積……約46万m²



設備等、順次建設してまいります。

工事状況



LNGタンク基礎版コンクリート打設(平成19年10月)



発電設備基礎杭打ち(平成19年11月)

シリーズ「上越市出身者のちよつといい店」

赤坂「かたぐるま」

日本を代表する大企業が集まる街「赤坂」。

飲食店が軒を連ね、夜ともなれば客で賑わう、一ツ木通り、みすじ通り、田町通り、そして赤坂通り。道を一本隔てた、夜の静寂（しじま）が「大人の街赤坂」を感じさせる、そんなところにお店がある。

階段を登り、「会員制」金フレートの付く重厚な扉を開くと、素肌美人のママがいつでも優しく迎えてくれる。「会員制」とはあるが、『形だけですヨ。新潟の方がいらつしゃって頂ければ嬉しいわ。』と微笑む。お店はこじんまりとしているが、いつも「お花」と「アート」と「ママの笑顔」でいっぱい。料理上手なママが作る「お通し」が疲れた胃袋と心をも癒してくれる。店の名は、『幼い頃、父親にかたぐるまをしてもらったときの「嬉しさ」、「気持ちよさ」、「不思議な安心感」をここにきて思

い出して頂けたら」との思いからだ。

「こゝかたぐるま」は、企業戦士のつかの間の休息の場であった。

ママからのメッセージ

「上越の皆様、いつでもお気軽にどうぞいらつしゃってください。
お待ちしております。」

《美人ママのデータ》

名前 平山裕子（ひろこ）

年齢 不詳（直江津高校同窓会の三姉妹の末っ子）

出身 上越市浦川原区（顕聖寺の近く）
あだ名 ヒロチャン

趣味 読書、芸術鑑賞、バレエボール
（ママさんバレーのエアスタッカー）

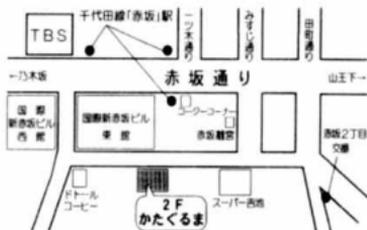
『かたぐるま』データ

住所 東京都港区赤坂二丁目一五
ハイツサト赤坂二〇二

TEL 〇三—三五八三—〇五七五

Email hiro-hi@poem.ocn.ne.jp

交通 地下鉄千代田線「赤坂」



上越市だより

保阪家怡顔亭(いがんでい)を公開(七月)

頸城筆頭の旧大地主保阪家の怡顔亭と隣接する庭園が一般公開された。上越地区に六百五十町歩の所有地を誇った戸野目の保阪邸千三百平方メートルの敷地には明治時代に建てられ、贅を尽くした京風建築が世紀を超えてたらずんでいる。隣接する苔むした庭園は歴史を物語っている。



大相撲上越場所に大興奮(八月)

五年ぶりとなる大相撲がリジョンブラザ上越で行われ、四千五百人の観客が横綱白鵬や大関琴光喜、地元出身の霧風らの力相撲を堪能した。上越わんぱく相撲教室に通う小中学生二十人が胸を借りて楽しんだ。



信越本線(柿崎・柏崎)が運転再開(九月)

中越沖地震の発生、青海川駅付近の土砂災害で不通になっていた信越本線・柿

崎・柏崎間が五十九日ぶりに復旧した。これ

で日本海縦貫の大動脈全線が復旧した。

青海川駅は

日本一海に近い駅として知られている。



日本最古の埋蔵「光券木簡」を発見(九月)

下野田延命寺遺跡から出土した木簡が日本最古の「光券木簡」であることが分かった。この遺跡は三和道路工事で昨年から発掘されており、二十一点の木簡が発見された。天平七年(七百三十五年)の日付けで、「物部郷某里の戸主、物部多里丸の一族が関係者と思われる物部烏丸が、野田村に持つ田畑を伊神郷の酒君大嶋に売った」という内容である。

田領の資料としても貴重で、この遺跡



が役所の出先機関であった可能性を示唆している。

「出張！なんでも鑑定団」(九月)

テレビの人気番組「出張！なんでも鑑定団」が九月十七日上越で収録された。

多くの応募者の中から選ばれた六人が自慢の掛け軸や書画を出品した。

放送はテレビ東京で十月二十三日、新潟総合テレビで十一月十七日放映された。



謙信公についての一冊詳しい本(十月)

上杉謙信の研究者であり、Jネット文化講演者の花ヶ前盛明さんが「上杉謙信」を新装版として刊行された。

謙信公の生涯や合戦、人柄、経済力などが資料と共に紹介され、特に川中島合戦は詳しく解説されている。新人物往来社、二、九四〇円



モクスガニゴツさり(十月)

吉川区を流れる吉川には春先から晩秋まで、海から移ったモクスガニが生息している。静寂な川底にひそみ、もつとも脂がのる十月から十一月にかけて漁の最盛期である。とっくり型「ツツカゴ」と呼ぶ



ワナは高さ九十センチ程で、底にカニが進入する通路があり、魚のアラなどに惹かれて進入したカニは戻れないようになっている。塩ゆでやみそ汁にするとこの季節だけの絶品である。

二十年ぶりに登山解禁になった焼山(十月)

昨年未二十年ぶりに登山解禁となった焼山(標高二千四百メートル)はその見晴らしの美しさで賑わっている。火打、妙高、笹ヶ峰ダムを一望出来、振り返れば日本海を望める。



映画「ふみ子の海」が満足度一位(十月)

情報誌「ぴあ」の映画館の出口調査やモニター調査によるランキングで、「ふみ子の海」が満足度一位を獲得した。大雪の大変さや荒々しい日本海、厳しいが美しい新潟の自然、盲目の人に対する思いを認識したと幅広い年代から絶賛された。



居多神社で遷座祭(十月)

五智の越後一の宮・居多神社が百年ぶりに新社殿を造営するにあたって、御神体を仮宮に移動する遷座祭が厳肅な雰囲気



気の中で行われた。現在の社殿は明治の火災後に造営された仮社殿である。御神体の納められた唐櫃は笛の音に先導され、かがり火の境内をゆっくり進み、無事仮宮に遷座された。新社殿は来年五月の春祭りまでの完成を目指して工事が進められる。

直江津小学校、現校舎での最後の文化祭(十月)

昭和四十三年に建てられ多くの卒業生を送り出した校舎は今年度中に全て取り壊される。現在の校舎での最後の文化祭では、学年別の「汐なりコンサート」が開かれ、多くの住民や児童が別れを惜しんだ。新校舎には十一月に移る予定。



新酒(に)こり造り2007岩の原葡萄園(十月)

岩の原葡萄園は、醗酵後の安定化処理や濾過を最小限にとどめた「にこり造り2007」の新酒を発売した。「にこり」は独特の色合いと風味、フルーティーな香りとやや甘口のワインでアルコール度数は九%と低く、一九五五年以来の人気商品。



高田日活映画館を水遠に(十月)

まもなく築百年を迎える、日本最古の映画館と言われている本町六丁目の高田日活を保存する運動が始まった。明治四十四年に芝居小屋「高田座」として始まり、「セントラルシネマ」、「松竹」など名前を変えて現在まで続く現役の映画館。外観、内装とも明治・大正の洋風建築で二階もあり、音響も良く風情あふれる建物だが、老朽化が進んでいる。

映画館前の建物が撤去されたため本町通から見えるようになった。
寄付を募る絵八カギを四枚千円で販売

している。



新井別院の梵鐘 二百六十年ぶりの帰還(十一月)

江戸時代に矢代川の大水害で流出し、不明だった梵鐘が市内の建設現場から二百六十年ぶりに発見され、新井別院の「おたや」で公開された。「奇跡」と喜ぶ声があがっている。



ある日の直江津港釣り情報(十一月)

アジ、サヨリが好調。アジは夜から早朝にかけて数が上がる。直江津港のアジは十二から十四センチが一人で四十二匹、黒井新堤で二十センチが一人二十から三十四匹。直江津港内でサヨリが百匹以上。帰省の折に如何ですか。

「文学界」新人賞に早川阿栗さん(十一月)
第百五回文学界新人賞の島田雅彦奨励賞を「東京キノコ」で授賞した。「東京キノコ」は若い女性の一人称。高校生のころ、暴力を振るう弟を両親が殺した。弟や両親への感情や恋人などへの感情を何故か部屋に生えてきたキノコを背景に書いている。

受賞作は「文学界」十二月号に掲載される。



吉川高校が一世紀の歴史に幕(十一月)

吉川高校が来年三月に閉校するのに先立ち、同窓会などが組織する閉校記念実行委員会が記念式を挙行了。明治四十三年に開校し、九十八年の歴史をもつ母

校に別れを告げる。

郷土を担う農業科、醸造科は独自の職業教育を展開したが、普通科志向の社会情勢と少子化で柿崎高校との統合及び比較高校の開校へと進んだ。

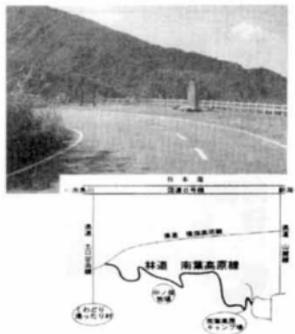


南葉高原線全線開通(十一月)

上越市の北西部に位置し、後谷から中ノ俣を結ぶ十二、六十キロの林道「南葉高原線」が開通した。沿線の水源林の整備、水源かん養機能強化、また南葉高原キャンプ場、南葉山登山道、中ノ俣牧場及びひくわどり湯つたり村を連結することになる。



「みんなで学ぼう上越学、みんなで育もつ郷土愛」(十一月)
 上越青年会議所の地域の魅力開発委員会はJネット相談役の佐久間昇二さんの講演とパネルディスカッションを開催した。佐久間相談役は上越市を「全国有数の人材輸出、流出都市。コメ依存型の農業の割に上越ブランドのコメは都会で売れていない。地場産業に特徴がない。観光資源があっても宿泊施設が足りない」と統計に基づき冷静な分析で指摘した。



井手さん講師に市議が勉強会(十一月)

Jネット理事で直江津港振興推進員の井手高吉さんが「産業構造の変化と考え方」と題して市議会議員の皆さんの勉強会で講演した。現在を第三次産業革命の時代とし、産業界や物流業界への影響を説き、ITやグローバル化の進展に対応した選択とスピードが現場に求められているとして、人間力や機能力がこれからの新しい総合経営の方向性と説明した。



技能五輪で金 下源人の大島さん(十一月)

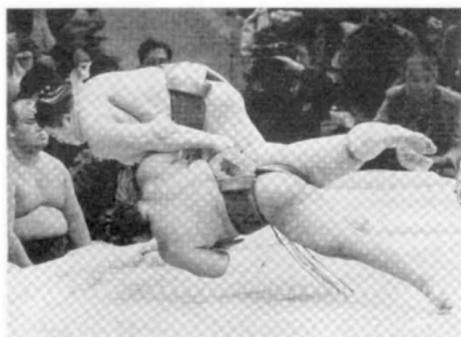
静岡で開かれた二十二歳以下対象の「ユニバーサル技能五輪国際大会」洋菓子部門で大島千奈さんが金メダルを獲得、世界一になった。四日間かけて、十五人の各国代表がマジパン細工、アントルメ(洋生菓子)、チョコレートなど六種類の菓子を制作し競い合った。

最高の親孝行と喜んでいる。



がんばれ！霜風(十一月)

大相撲九州場所で十勝五敗の好成績で、幕内復帰への期待が大きくなりました。写真は十二日目上手投げで勝利し、九勝目をあげた一番です。





地域に密着した総合タウン誌

月刊 **JACK LAND**
上越エリア情報誌 ジャックランド

320円

毎月25日発売

定期購読承ります

新潟県上越市上島464-1 エリート2F
TEL.025-524-4275 FAX.025-524-4451
e-mail hensyuubu@jack-land.com
URL http://www.jack-land.com

介護付有料老人ホームおよびショートステイ

サンクス高田

上越地方で初めての有料老人ホームです。帰郷の際はぜひご内覧ください。

□介護付有料老人ホーム (3階～5階 全個室 54室)
・老後は故郷の高田で暮らしたい。
・単身になってみて、兄弟、友人、知人のいる故郷の上越に転居したい。
・高田のまちなかの親身利用タイプのホームで安心して暮らしたい。
このようなお客様が東京方面からご入居されています。
ホームは、現在満室の状況ですが、随時ご相談承っております。

□ショートステイ (2階 全個室 20室)
・故郷の両親の暮らしが気がかりで、時々世話をしたい。
・故郷の両親には、健康相談、話し相手、友達作り等の楽しい生活環境で過ごしてほしい。
・ご旅行、出張、転勤の時は両親の介護を頼みたい。
・冠婚葬祭や行事の時は、両親の介護を頼みたい。
・ご家族の介護疲れの軽減、身体を休めたい。
ショートステイは、全て個室で、プライバシーとくつろぎの生活を優先させ、介護、看護、機能訓練、生活相談のサービスを提供しております。

□主なスタッフ
クマナーシャー、生活相談員、看護職員、介護員、栄養士など、約40人以上のスタッフがおります。
また協力医療機関は、近隣の4つの医療機関と連携しています。

□お問合せ先 (資料をお求めください)
介護付有料老人ホームおよびショートステイ サンクス高田
〒940-0892 上越市寺町3丁目10番11号
TEL. 025-525-7038 FAX. 025-526-7236
E-mail info@sankusutakada.co.jp
株式会社 くびき野ライフスタイル研究所

NPO法人 食の工房ネットワーク

NPO法人・食の工房ネットワークは、私たちが目指す「食べる側」と「作る側」を本来の姿につなぐ活動を中心に、お互いの立場から結びつきを大切にし、畑から食卓までの流れの中で、安全性や品質に「透明性」を求めることを共通の目的として設立いたしました。消費者と生産者がお互いに通じながら、安全な地域の生産品を、安心して食べることが出来るように「食に関するプラットフォームづくり」を進めています。



上越市の田園と妙高山

こんな活動をしています

- 農産物・加工品に関する情報収集及び情報発信
- 農産加工品に関する調査及び研究
- 地場農産物・加工品の消費拡大事業
- 自然を通じて子供たちに五感を感じさせる活動

これらのコンサルティング・教育・講習を中心にして事業展開しています。

〒943-0831 新潟県上越市下正善寺1027-2 正善寺工房内
TEL・FAX 025-523-0621



(有)上越商業サービス公社

上越観光物産センター内
上越市藤野新田175-1 〒943-0171
TEL 025-545-0123 FAX 025-545-1113
営業時間 9時～18時
休館日 月曜日、祝日の翌日

上越の名産・特産品を一堂に取り揃えています。お土産選びにぜひご利用ください。

取扱商品例

塩するめ、丸干イカ、かまぼこ、ワイン、日本酒米、そば、ちまき、おかき、笹だんご、各種銘菓

通信販売も行っています。Jネット会員の皆様にご利用される場合は、送料は不要です(送料は、Jネットが負担します)。ご贈答等にもご利用ください。



創業明治23年
伝統の味
岩の原ワイン

～日本の本格的ワイン発祥の地～

株式会社 岩の原葡萄園

TEL 025-528-4002 新潟県上越市北方1223番地
URL <http://www.iwanohara.sgn.ne.jp/>

日本の本格ワイン発祥の地「岩の原葡萄園」は、明治23年の創業以来、3世紀にわたって高品質のワインを世に送り出してまいりました。
お客様で上越市の代表的な特産品として、多くの方にご愛用いただいております。さて、弊社では、遠方にお住まいでお近くに岩の原ワイン取扱店がない方に向けて、「岩の原ワイン みゆき会」の会員を募集いたしております。
ワイン10,500円以上のご注文で送料無料、ご入会プレゼントや、お買上げのポイントによるプレゼントなど、色々の特典がございますので、Jネット会員の皆様も是非ご利用下さい。
お問い合わせ 株式会社岩の原葡萄園 025-528-4002

山里のすべてが湯ったり村です。

月明 蒼穹
紫昏 叢雲
花薫 豊饒
風鳴 伝説
瀬音 狹霧
寂静 皇雨



十人十色の癒しの郷
くわとり湯の54村 上越市栴檀1601
TEL 541-2611 FAX 541-2616

ふるさとへの便り 毎日お届けします

日刊

上越タイムス

上越タイムス

検索

ご購入のお申込みは

☎ 0120-17-4243
FAX 025-525-0061
URL www.j-times.jp

購読料は

1ヶ月 2,875円(税・送料込)
お支払いは郵便振替となります

本社 〒943-0823 新潟県上越市高土町2-4-6
TEL 025-525-6666
株式会社 上越タイムス社

J A えちご上越管内の
大豆・米を使用した自慢の味噌です。

熟成みそ
味噌
みそ
路



赤みそ・白みそカップ入り

お問い合わせは

JA えちご上越 あぐりフーズ

えちご上越農業協同組合 あぐりフーズ
〒942-0061 新潟県上越市春日新田5-3-11

☎ 0120-81-1093

インターネットから
お買物できます。「ごちそう市場」www.ja-ichiba.com

上越市の主な催し

「上越市のイベントカレンダー」より、今年度の主な催しをとりあげてみました。是非参加されませんか。なお、都合により変更になる場合もありますので、「問合せ先」または、市の企画政策課（電話：025-526-5111）に確認してください。

1月



イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	問合せ先
企画展Ⅱ 「博物館へ行こう！」	1月5日(出) ～3月23日(日)	総合博物館	総合博物館所蔵の歴史・民俗資料を中心に展示し、上越地方の歴史や人々の暮らしを紹介いたします。 入館料：一般400円、小中高生200円 (上記入館料で小林古径記念美術館、小林古径邸もご覧いただけます。)	上越市立総合博物館 Tel.025-524-3120
企画展Ⅲ 「濱谷浩写真展」	1月5日(出) ～2月11日(月祝)	総合博物館	当館で所蔵する濱谷浩写真作品群の中から、桑取谷の小正月行事を撮影した写真集「雪国」を紹介いたします。 入館料：一般400円、小中高生200円 (上記入館料で小林古径記念美術館、小林古径邸もご覧いただけます。)	上越市立総合博物館 Tel.025-524-3120
「スキーの日」記念イベント	1月12日(出)	金谷山スキー場	日本に初めてスキー術を伝えたオーストリアの軍人レルヒ少佐の偉業をたたえ、開催するイベントです。当日は、伝承された「一本杖スキー」を当時の衣装で披露します。	上越市教育委員会 体育課 Tel.025-545-9246
日本スキー発祥記念館 「企画展」	1月中旬～2月下旬	日本スキー発祥記念館	「1月12日(出)スキーの日」にあわせて、レルヒ少佐をはじめ、日本のスキー発祥に関する資料を展示・公開します。	上越市文化振興課 Tel.025-526-5111

2月



イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	問合せ先
レルヒ祭 —日本スキー発祥 97周年—	2月9日(出)～10日(日)	金谷山スキー場、高田本町商店街ほか	日本に初めてスキー術を伝えたオーストリアの軍人レルヒ少佐の遺徳を顕彰するイベントです。前夜祭では、大花火大会、たいまつ滑降、本祭では、当時のスキー術を再現した一本杖スキーの披露やモーグル大会等を行います。また、レルヒ祭の前にはレルヒウィークとして食の陣やミニコンサート等を行います。	レルヒ祭実行委員会 事務局 (市観光振興課内) Tel.025-526-6901
牧っこ雪まつり	2月10日(日) (予定)	牧地区公民館前広場	牧区の毎年恒例の雪まつりです。こんぞ(わらくつ) 飛ばし、宝さがし、雪像アートコンテスト、出店、抽選会等を行います。	牧振興会事務局 Tel.025-533-5141

イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	問合せ先
企画展Ⅳ 有澤忠一コレクション 「エミール・ガレ展」	2月16日(出) ～3月23日(日)	総合博物館	有澤忠一氏から寄贈されたアール・ヌーヴォーの代表作家エミール・ガレのガラス工芸品を紹介します。 入館料：一般400円、小中高生200円 (上記入館料で小林古径記念美術館、小林古径邸もご覧いただけます。)	上越市立総合博物館 Tel.025-524-3120
雪上カーニバル	2月17日(日)	浦川原区 月影の郷グラウンド	浦川原区の冬を楽しむイベントです。人間ばんぱレース、かんじきレース等雪国ならではのイベントを開催します。	上越市 浦川原区総合事務所 産業建設グループ Tel.025-599-2301
寺野遊雪まつり	2月中旬	板倉区 パークみよし野	寺野地区は、8.18mという積雪記録を持つ、有数の豪雪地帯です。敬遠されがちな雪を活用した雪上相撲などの他、バンド演奏、てらの食の陣、花火大会等を行います。	板倉区 糸しんの里やすらぎ荘 Tel.0255-78-4833
越後・大島雪ほたるロード	2月23日(出)	大島区一円	「ほたるの里」と呼ばれる大島区の冬に一日限りで現れる雪ほたる。大島区内の沿道に約2万本のロウソクが灯ります。区内4地域で様々なイベントを開催します。	大島まちづくり振興会 Tel.025-594-3122
第25回安塚スノーフェスティバルキャンドルロード	2月23日(出)～24日(日)	安塚区一円	安塚区内の沿道沿いに、5万本のキャンドルが灯り、幻想的な空間に包まれます。各地域には、雪茶屋が設置されます。	NPO雪のふるさと安塚 Tel.025-592-2004
名立区遊雪まつり	2月24日(日)	名立区 不動産地域生涯学習センター	冬を楽しむイベントとして開催します。道具を使わず、手足だけを使って雪を積み上げ、その高さを競う「めざせ不動山1430」のほか、ミニボブスレー、サッカーdeアイスクリーム、鶏汁、もちの振る舞い等を行います。	名立体育協会事務局 (名立区総合事務所内) Tel.025-537-2126

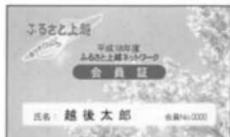
3月



イベント・大会名	開催日時	会場	実施内容	問合せ先
どうがたの里そばまつり	3月上旬(予定)	板倉区 筒方地区地域資源加工施設	光ヶ原高原の香り高い自慢のそば「光ヶ原霧下そば」を使って、地元のそば打ち名人の「霧下そば食堂」、そば打ち体験教室、手打ちそば・そば粉販売等を行います。	どうがたの里そばまつり実行委員長 市村照男 Tel.0255-78-4569
坂口記念館「坂口謹一郎博士と酒とつばきの祭典」	3月下旬(予定)	頸城区 坂口記念館ほか	応用微生物の世界的権威で「酒の博士」としても知られる上越市出身の坂口謹一郎博士の業績やゆかりの品を展示します。また、講演会、バスツアー、坂口博士ゆかりの雪橇即売会も行います。このほか、この季節は記念館の庭園に約190本もの椿が春を彩ります。	上越市文化振興課 Tel.025-526-5111

上越市の施設

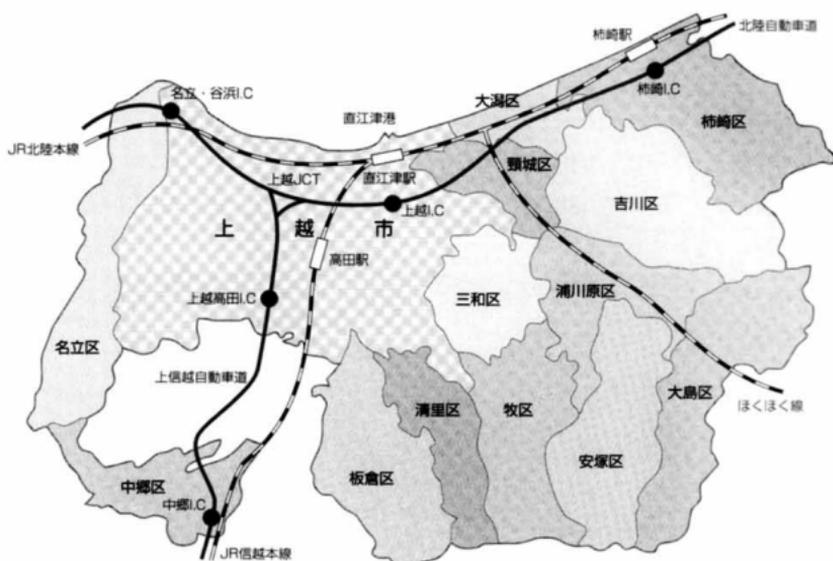
上越市の施設を割引で利用できます。利用の際には
会員証を提示してください。 ()内は会員の割引料金です。



施設名	住 所 (上越市内)	電話番号	料金 (一般・個人料金)
リージョンプラザ上越 (アイスアリーナの貸靴料を除く)	下門前 446-2	025-544-2122	レジャープール 400円(200円) アイスアリーナ 800円(400円) インドアスタジアム 100円(50円) 市民プール 300円(150円)
上越科学館	下門前 446-2	025-544-3939	400円(200円)
水族博物館 (サイクルモノレールを含む)	西本町 4-19-27	025-543-2449	900円(450円)
五智公園キャンプ場 (バンガロー使用料)	五智 6 丁目	申込先:青少年文化センター 543-6030 管理棟 545-9503	1泊 3,500円(1,750円)
総合博物館 (特別展を除く)	本城町 7-7	025-524-3120	300円(150円)
高田城三重櫓	本城町 6-1	025-526-5915	200円(100円)
日本スキー発祥記念館	大貫 1453-1	025-523-3766	300円(150円)
くろみ家族園	東中島 2487	025-544-7440	浴場 400円(200円) バターゴルフ 500円(250円)
金谷山スキーリフト・スーパー ボブスレー	大貫 595-2	025-525-4295	リフト 100円(50円) ボブスレー 100円(50円)
海洋フィッシングセンター(えさ 代を除く)	虫生岩戸 719	025-544-2475	使用料 100円(50円) 貸し竿 200円(100円)
交通公園ゴーカート	五智 6-1569	025-543-5948	2人乗り 200円(100円)
市民いこいの家	石橋 1-1-3	025-545-5270	浴場 250円(120円)
小林古邸邸	本城町 7 番 1 号	025-525-2429	200円(100円)
かやぶき美術館	安塚区安塚 804-4	025-592-2048	300円(150円)
安塚歴史民俗資料館	安塚区安塚 609-3	025-592-2209	100円(50円)
浦川原霧ヶ岳温泉ゆあみ	浦川原区古谷島 1217-1	025-599-3810	500円(250円)
牧歴史民俗資料館	牧区宮口 1483-1	025-533-5117	200円(100円)
柿崎屋内水泳プール (4~11月)	柿崎区法音寺 392-26	025-536-3758	300円(150円)
鶴の浜人魚館	大潟区九戸浜 241-8	025-534-6211	風呂 500円(350円)、プール 700円(400円)
坂口記念館	頸城郡鶴ノ木 148	025-530-3100	200円(100円)
吉川緑地等利用施設	吉川区尾神 588-1	025-547-2545	400円(200円)
吉川スカイトピア遊ランド	吉川区坪野 1458-2	025-547-2221	400円(200円)
板倉郷土館	板倉区針 842-1	025-578-2325	100円(50円)
清里星のふるさと館	清里区青柳 3436-2	025-528-7227	入館料 300円(150円) プラネタリウム料金 300円(150円)
清里歴史民俗資料館	清里区岡野町 1580	025-528-3111	100円(50円)
三和米と酒の謎蔵	三和区大 867-1	025-532-4189	300円(150円)
シーサイドパーク名立	名立区名立小泊 798-1	025-537-2121	200円(100円)



☆全国16位の面積を持つ上越市



編集後記

今年も紅葉の季節が通り過ぎ、やっと鍋物が美味しく感じられる寒さがやって来たようです。ふる里の美味しい酒と友が居れば、話はおのずとふる里の昔話になります。同じ思い出を何度話したことが、何度聞いたことが、飽きることはありません。これがふる里を共有するJネット人の姿です。

こんな姿にあこがれ、話題を提供する一助にと会報を編集し、やっと24号をお配り出来るようになりました。少しでもふる里の匂いをここから感じて頂きたく、編集をしたつもりですが、どう感じにられましたでしょうか。ご笑覧頂ければ幸いです。また、十分気を付けましたが誤字や落丁などありましたら、ご容赦ください。

春のふるさと交流会では板倉区を訪ね、秋には三和区と佐渡にも足を伸ばして来ました。私達の知らなかった美しい地域がこんなに近くにあるのかと驚くばかりです。交流会を通して、またサロンを通しての交流は私たちの心を癒し、元気にしてくれます。是非多くの皆さんに参加を頂き、活力のある明日の生活に少しでも役立てていただきたいものです。

今号も多くの方々にご協力を頂きました。またいつもながら上越のニュースは上越タイムさんの協力を頂きました。厚くお礼申し上げます。これからも観た事、聞いたこと、経験したこと、やってみたい事等々皆様の投稿をお寄せください。

気候不順な昨今ですが、厳しい冬はまもなくやって来ます。風邪など召さぬよう、ご健勝で良い新年をお迎えください。

Jネット運営委員 岡村博己



●発行

ふるさと上越ネットワーク事務局(上越市企画・地域振興部 企画政策課内)
〒943-8601
新潟県上越市木田1-1-3
TEL.025-526-5111 FAX.025-526-8363
E-mail: kyoudou@city.joetsu.lg.jp

運営委員会事務局

〒150-0011
東京都渋谷区東1-26-30 渋谷イーストビル
(株)社会システム研究所内
TEL.03-3499-8299 FAX.03-3499-8299
URL <http://www.joetsu.gr.jp/>

【皆様からの情報をお待ちしています】TEL.025-526-5111(Jネット事務局)
